

平成 14 年 10 月 7 日
気象庁・国土地理院

平成 14 年 9 月の地震・火山活動および平成 14 年 8 月～9 月の地殻変動の記者説明について(お知らせ)

標記に関して本日(10月7日) 気象庁記者会見室にて、気象庁と国土地理院による共同の記者説明を下記の内容と報道発表資料を用いて行います。

今後、定期的に毎月の地震・火山活動および地殻変動に関する記者説明を気象庁と国土地理院との共同で、気象庁記者会見室にて行う予定です。

また、地震・火山活動や地殻変動に変化があらわれた場合も、必要に応じて、共同の記者説明を行う予定です。

内容

1 . 平成 14 年 9 月の地震活動及び火山活動について(気象庁)

- 報道発表資料
- ・平成 14 年 9 月の地震活動及び火山活動について
 - ・別紙 1 : 主な地震活動
 - ・別紙 2 : 世界の主な地震
 - ・別紙 3 : 主な火山活動

2 . 平成 14 年 8 月～ 9 月の地殻変動について(国土地理院)

- 報道発表資料
- ・平成 14 年 8 月～ 9 月の地殻変動について
 - ・別紙 1 : 全国の地殻変動図-1 ヶ月-
 - ・別紙 2～ 5 : 各地の地殻変動図-1 ヶ月-
 - ・別紙 6 : 全国の地殻変動図-1 年間-
 - ・別紙 7～ 10 : 東海地方の地殻変動
 - ・別紙 11 : 八丈島周辺の地殻変動

平成14年9月の地震活動及び火山活動について

[地震活動]

9月16日に鳥取県中・西部で小規模な被害を伴う地震(最大震度4)が発生しました。その他は、特に目立った活動は無く、地震回数も特に多くはありませんでした。また、国土地理院のGPSによる地殻変動観測によると、地殻変動に特段の変化はありませんでした。

震度1以上が観測された地震の回数は115回、日本及びその周辺でM(マグニチュード)4以上の地震の回数は56回でした。

震度3以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙1のとおりです。また世界の主な地震は別紙2のとおりです。

[火山活動]

これまでの活動経過から見て、特段の新たな異常が観測された火山はありませんでした。

三宅島では火山ガス(二酸化硫黄)の放出が日量5千~2万トン程度と多い状態が続いています。

主な火山活動の概況は別紙3のとおりです。

なお、10月15日開催の火山噴火予知連絡会において、火山活動状態に関する総合的な検討と評価が行われる予定です。

注：国土地理院のGPSによる地殻変動観測については「平成14年8月~9月の地殻変動について」を参照ください。

10月の地震活動及び火山活動については11月8日に発表の予定です。

また、地震活動および火山活動の詳細については、地震火山月報(防災編)9月号(10月15日にHP掲載予定)をご覧ください。

9月の主な地震活動*

NO	地域	主な地震	地震活動等
1	青森県東方沖	9月3日 M4.2 深さ58km (最大震度3)	沈み込む太平洋プレートと陸のプレートの境界付近で発生している通常地震。
2	宮城県北部	9月8日 M3.8 深さ8km (最大震度4)	8月29日頃から小規模な地震活動が始まり、9月8日にM3.8(最大震度4)、9月9日にM4.1(最大震度3)の地震が発生した。9月下旬以降活動はほぼ収まっている。
		9月9日 M4.1 深さ8km (最大震度3)	
3	宮城 岩手県境付近 [宮城県北部]	9月19日 M4.1 深さ9km (最大震度3)	北北西-南南東に圧力軸をもつ逆断層型の地震。この圧力軸の方向はこの地域で発生する地震によく見られる。ほぼ同じ場所で、2月13日にM4.5(最大震度3)が発生している。
4	三宅島近海 ~新島・神津島近海		地震活動は低調ながら継続している。9月4日21時台に最大震度1を3回観測する一時的な活動があったが、その後は静かな状態である。
5	八丈島近海		八丈島付近で8月13日から八丈島付近の深さ約10kmで微小な地震活動が始まり、活動域は段階的に西へ移動した。国土地理院および海上保安庁のGPS観測によると、8月15日に八丈島が東へ6cm程度移動、数cm隆起したことが観測された。9月中の地震活動は低調な状態であった。9月中に震度1以上を観測した地震は9月27日に発生したM4.1(最大震度1)の1回。
6	新潟県中越地方	9月23日 M3.5 深さ13km (最大震度3)	北西-南東方向に圧力軸をもつ逆断層型の地震。この圧力軸の方向はこの地域で発生する地震によく見られる。
7	福井県嶺北地方	9月8日 M3.9 深さ10km (最大震度3)	その後の活動に変化はない。この付近の地震活動では、ほぼ同じ場所で2月18日にM3.2(最大震度2)の地震が発生している。
8	東海地域の地震活動		(9月30日、判定会委員打ち合わせ会コメント) [東海地域のフィリピン海プレート内の地震活動は、昨年4~6月の静岡県中部の活動終了以降、低い状態でしたが、最近、M3クラスの活動も見られ、平常レベルの活動に戻っています。地殻内の地震活動は、全体としては平常レベルです。駿河湾沿岸では今年に入って活動が低下していましたが、最近M2クラスの活動が見られるようになりました。また、東海地域及び周辺の地殻変動には、国土地理院の観測によれば、昨年からの長期的な変化が認められ、現在でも依然として継続しているように見えます。この変動は、陸のプレートがフィリピン海プレートに対して、おおむね南東方向に、年間2~3cm程度かそれ以下のゆっくりとした速度で滑っていることに起因するとみられます。主なすべり領域は、当初、浜名湖付近直下でしたが、その後、北東方向にやや拡散しました。このすべりは東海地震の想定震源域の外の非地震性すべりと考えられ、そのすべりの総量はモーメントマグニチュードで6.8程度に相当すると考えられます。現在のところ、この変化はゆっくりとしたもので、他の東海地域の体積歪計などの観測項目も含め、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。] その後も地震活動等の状況に変化はない。

10	和歌山県北部	9月2日 M4.0 深さ8km (最大震度3)	この地域では小規模な地震活動が定常的に見られる。
11	鳥取県中・西部	9月16日 M5.3 深さ10km (最大震度4)	16日に発生した地震により鳥取県、岡山県及び島根県の一部で震度4を観測した。この地震により鳥取県内で住家一部破損7件、ブロック塀破損4箇所等の被害が発生した(9月17日現在、総務省消防庁調べ)。西北西-東南東に圧力軸を持つ横ずれ断層型の地震。この圧力軸の方向はこの地域で発生する地震によく見られる。なお、震度1以上を観測した余震は14回。最大は17日と19日に発生したM3.9(最大震度3)。余震活動は順調に減衰している。また2000年10月6日の鳥取県西部地震(M:7.3、最大震度6強)の震源は、今回の余震域から約40km西にあたる。
		9月17日 M3.9 深さ9km (最大震度3)	
		9月19日 M3.9 深さ7km (最大震度3)	
12	島根県東部	9月22日 M3.3 深さ6km (最大震度3)	「平成12年鳥取県西部地震」の余震活動は、余震は順調に減衰している。
13	熊本県熊本地方	9月2日 M3.8 深さ12km (最大震度3)	南北方向に張力軸をもつ横ずれ断層型であり、張力軸の方向はこの地域の傾向と一致している。震源は布田川・日奈久断層帯付近に位置する。
14	ウラジオストク付近	9月15日 M6.5深さ約640km (最大震度1)	沈み込む太平洋プレート内部で発生している通常地震。

その他の活動(期間外を含む)*

9	和歌山・奈良県境		2001年5月からの和歌山・奈良県境の地震活動は、9月も低調ながら断続的に継続した。9月中の最大は、M2.6(3日、26日)であった。
	長野県中部	10月4日 M3.1 深さ6km (最大震度3)	10月2日23時過ぎから小さな地震が起き始め、その後、地震の数は減少したが、4日13時05分に震度3(M3.1)、同17分には震度1(M2.7)の地震が発生した。また、6日の夕方から7日の未明にかけて最大震度1を観測する地震が3回発生した。その後は静かな状態である。この地域では1980年以降、M3.0程度以下の活動が時々発生している。

注1: 「主な地震活動」とは 震度3以上の地震 M6以上の地震 以前にとりあげた地震活動で、活動が継続しているものなど

注2: 「その他の活動」とは 主な地震活動に掲載する地震で10月に発生したもの(期間外) その他、特徴的な地震活動

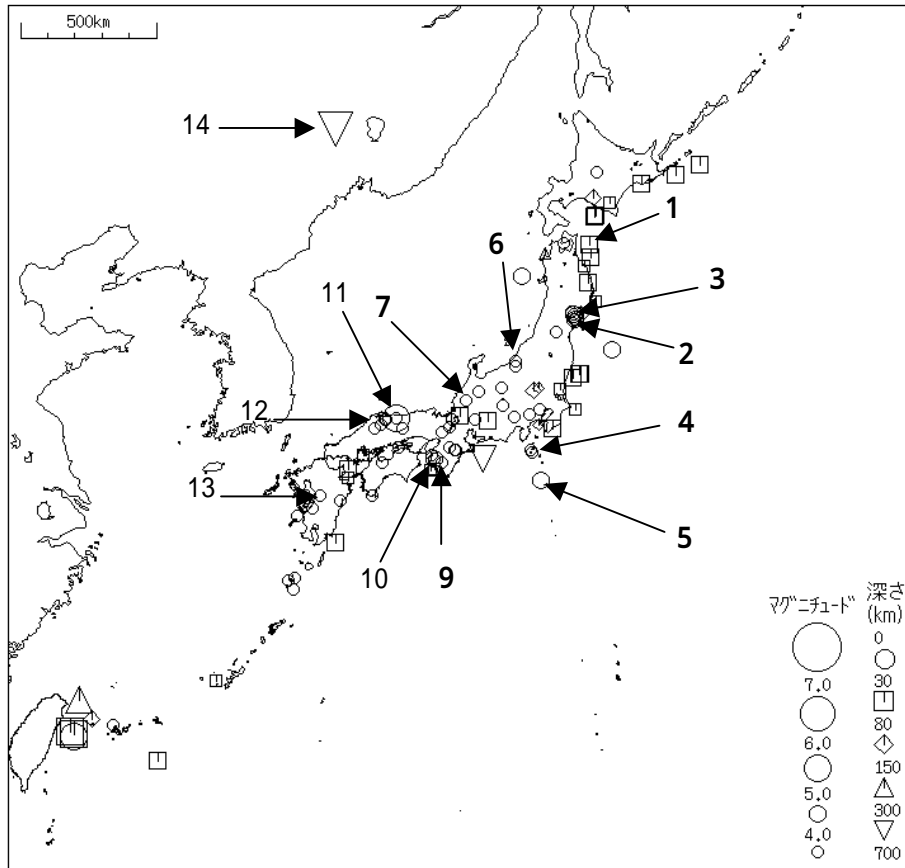


図1 震度1以上が観測された地震
(図中の番号は、別紙1の表のNoに対応する地震)

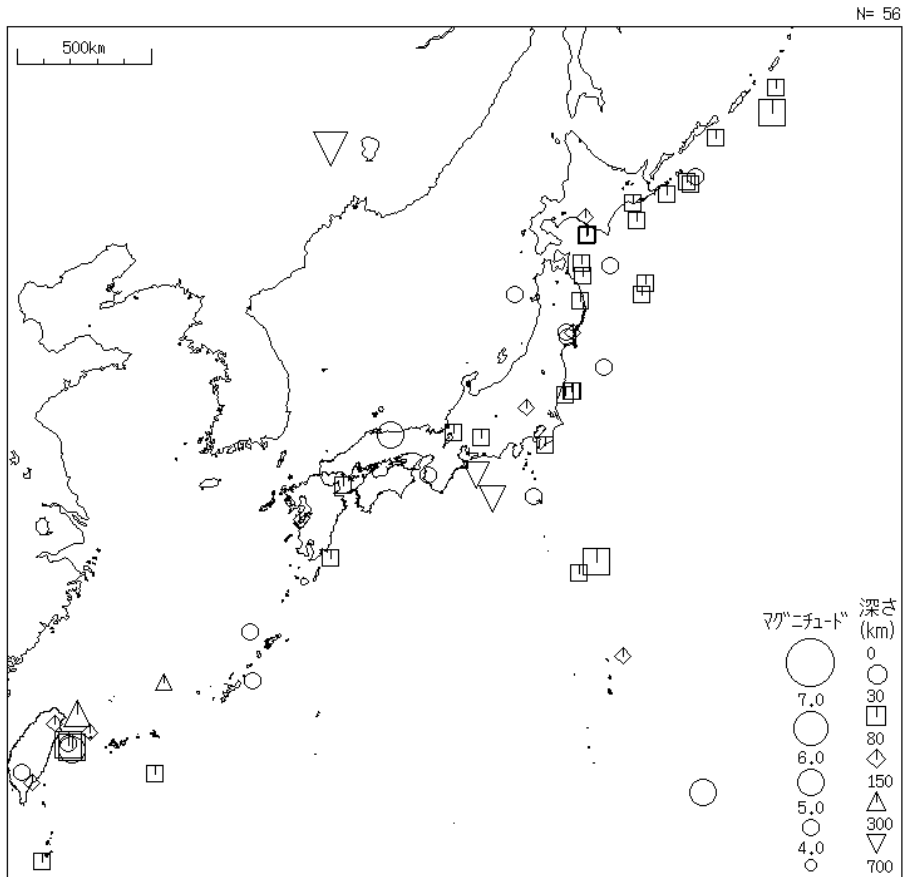


図2 M4.0以上の地震

別紙 1 - 参考 2

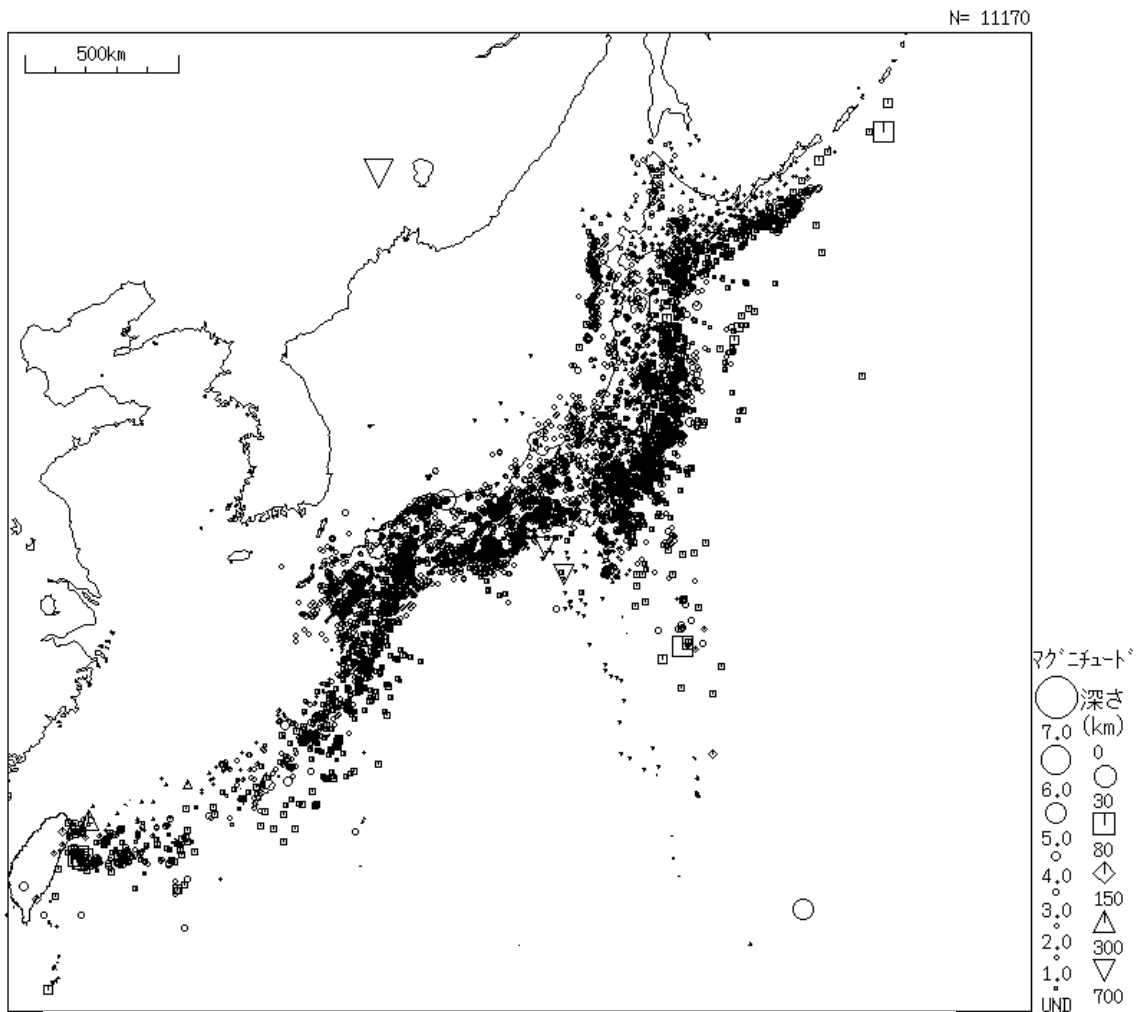
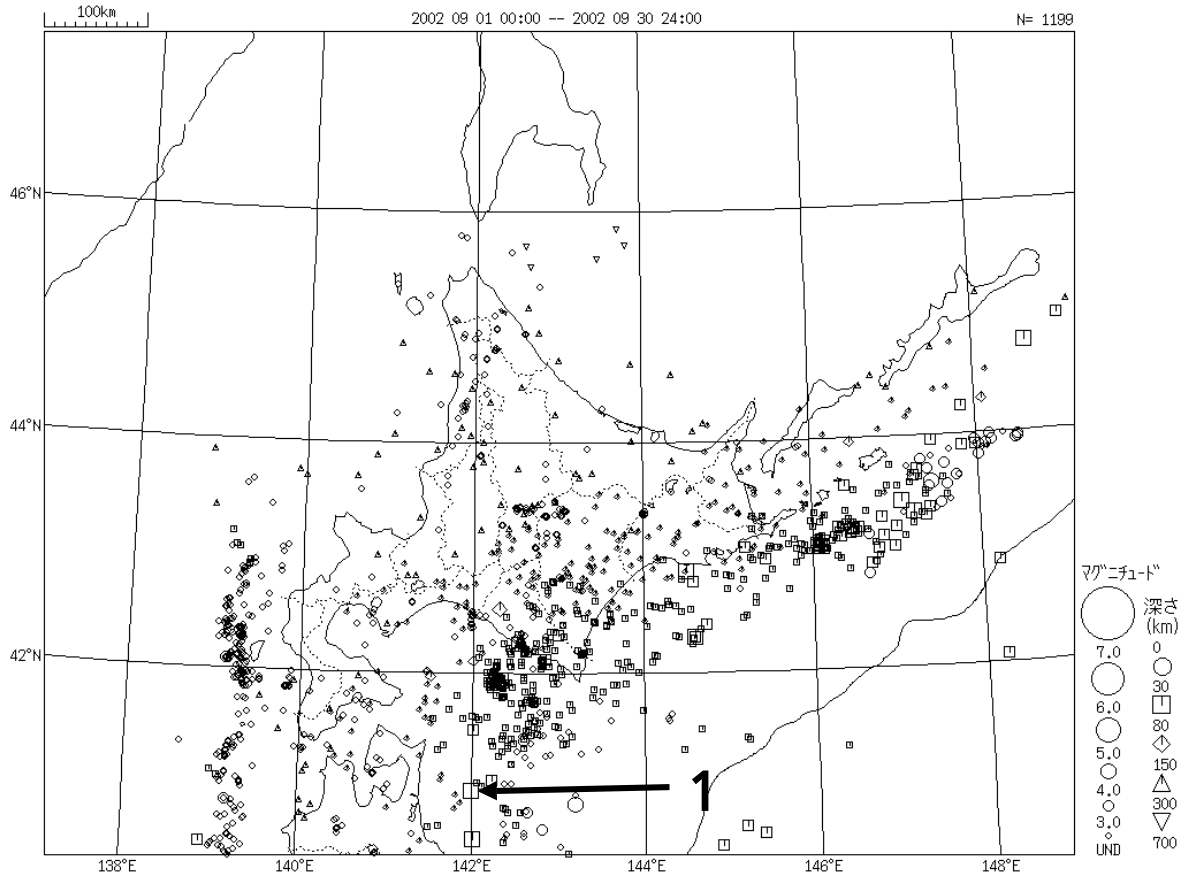
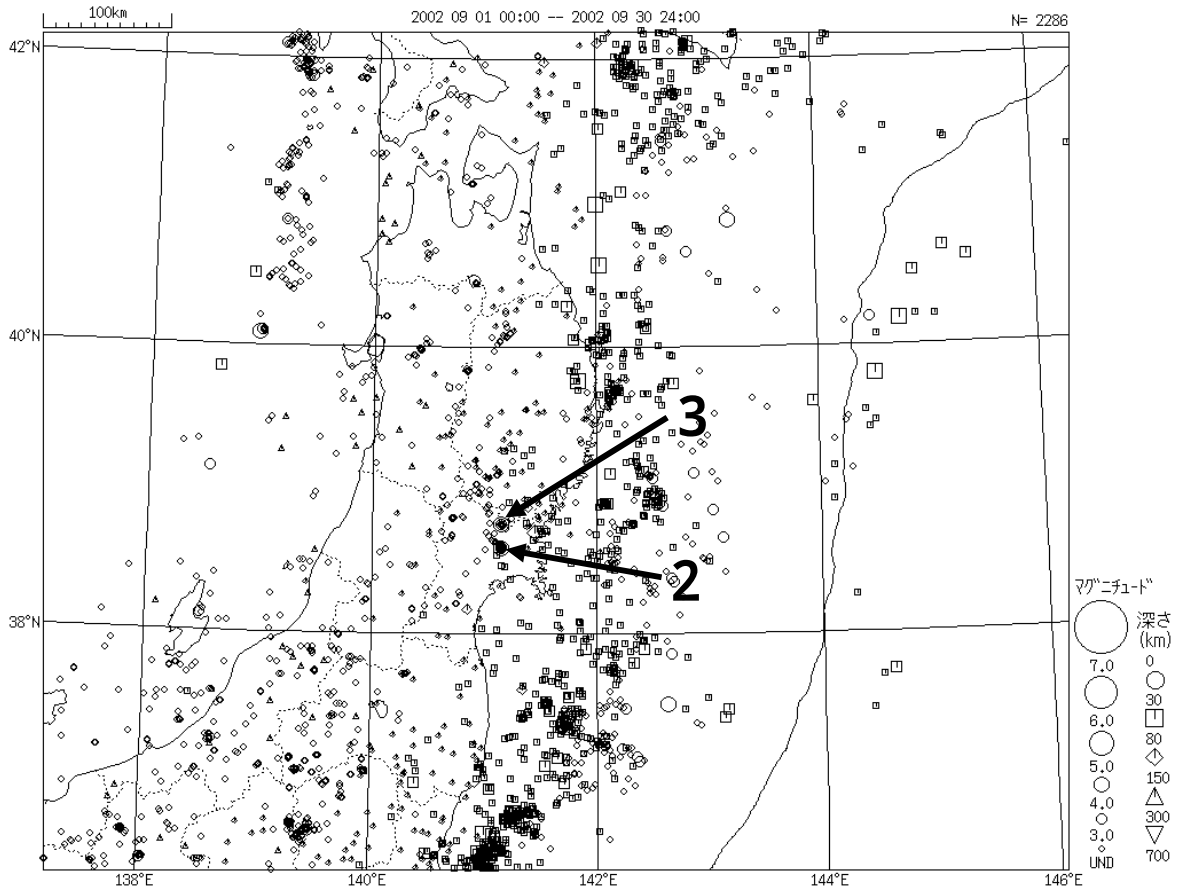


図 3 - 1 気象庁が震源を決定した日本付近の 2002 年 9 月の地震の震央分布

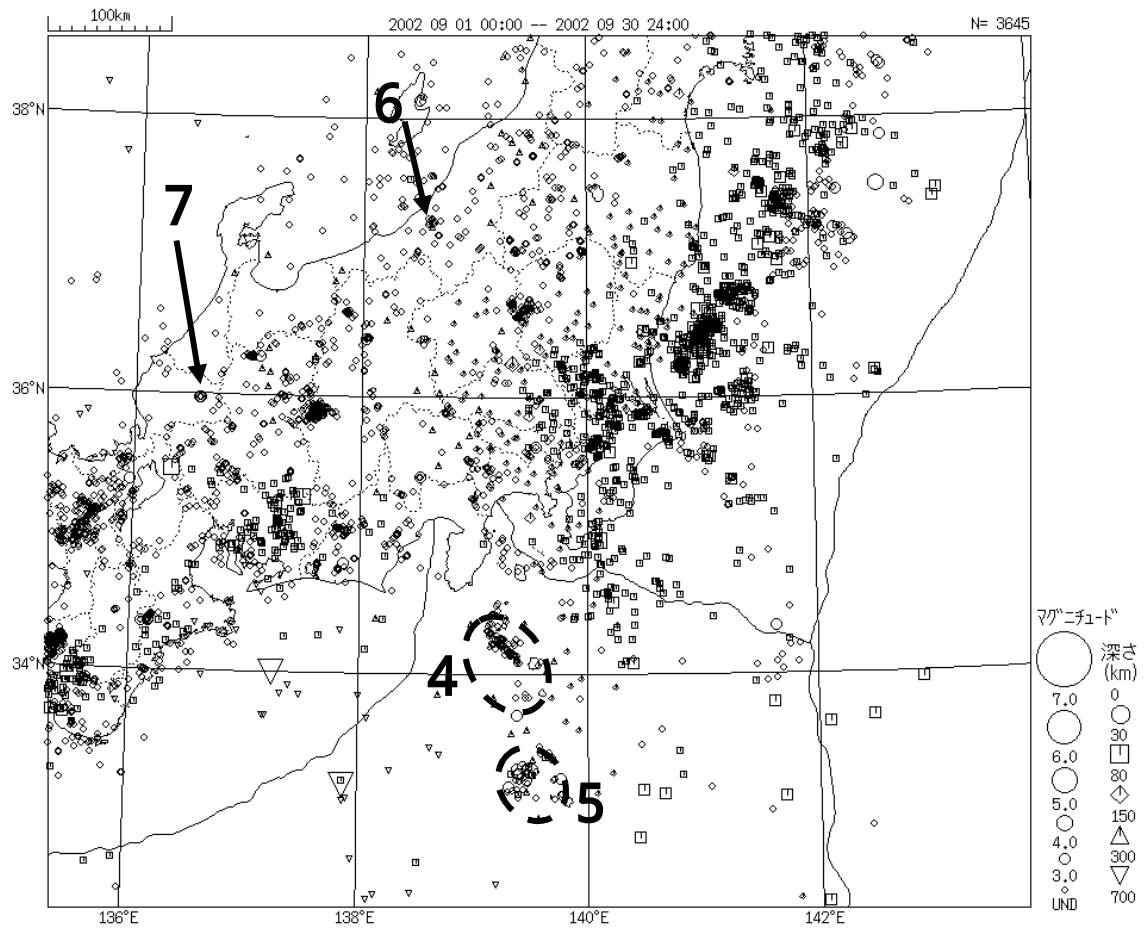
北海道地方 図3 - 2 (図中の番号は、別紙1の表のNo.に対応する地震)



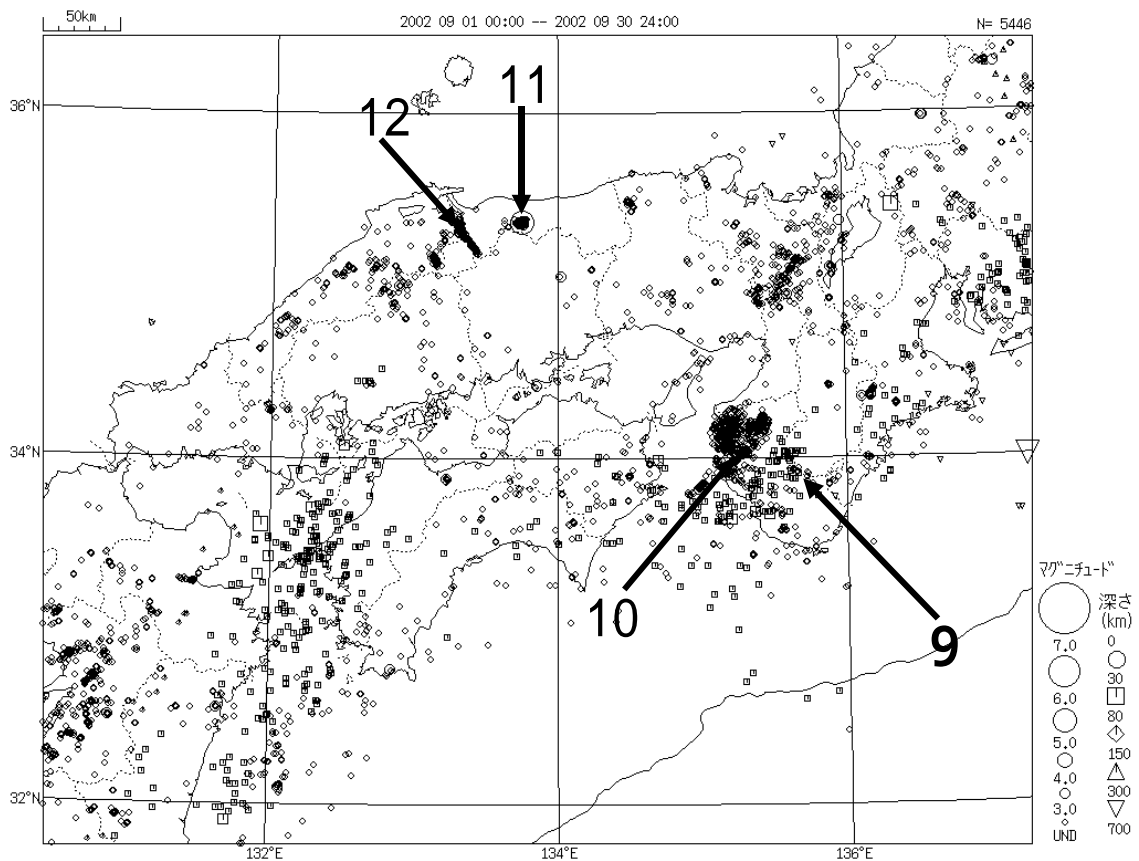
東北地方 図3 - 3 (図中の番号は、別紙1の表のNo.に対応する地震)



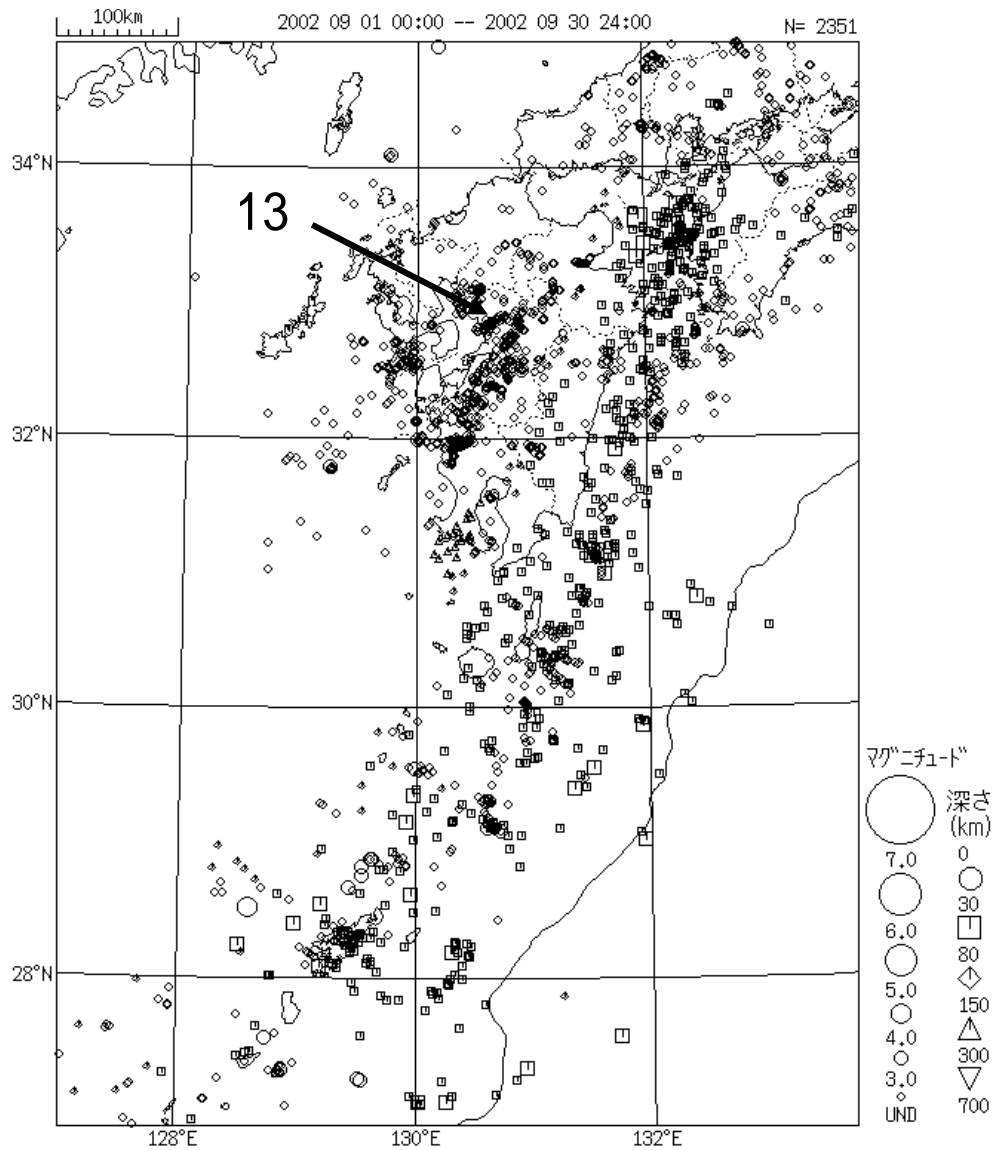
関東・中部地方 図3 - 4 (図中の番号は、別紙1の表のNo.に対応する地震)



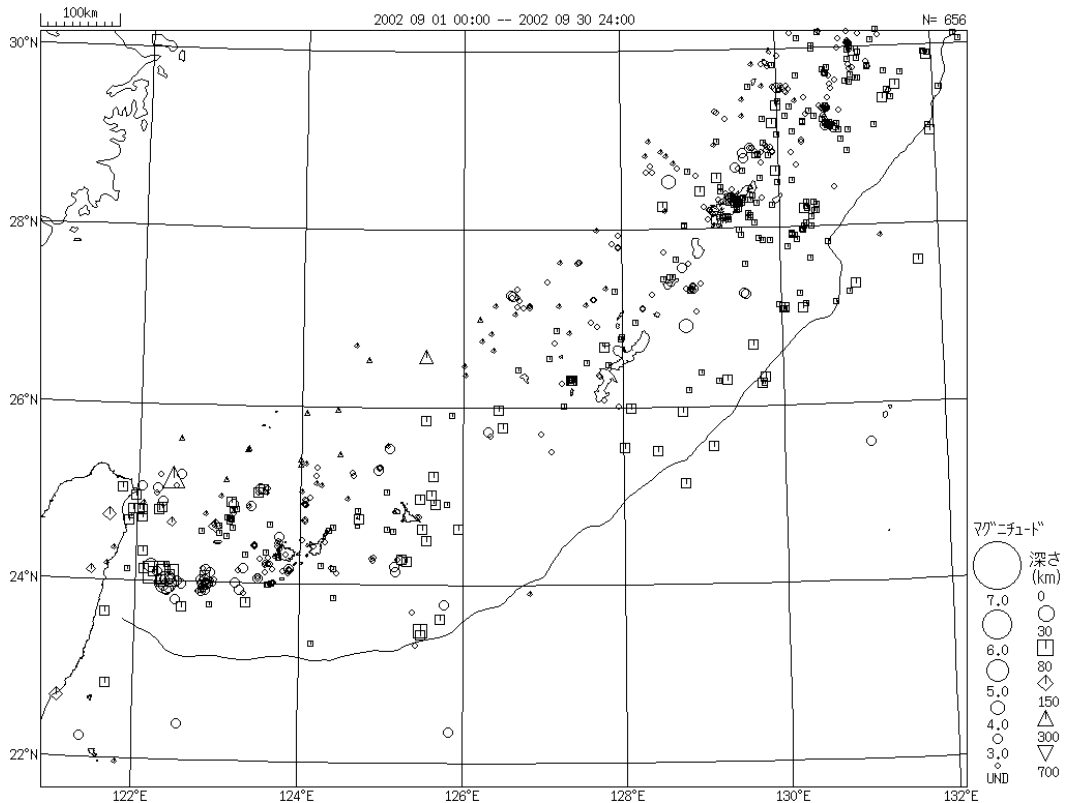
近畿・中国・四国地方 図3 - 5 (図中の番号は、別紙1の表のNo.に対応する地震)



九州地方 図3 - 6 (図中の番号は、別紙1の表のNoに対応する地震)



沖縄地方 図3 - 7 (図中の番号は、別紙1の表のNoに対応する地震)



地震活動の前月との比較(M3以上)

平成14年8月の地震活動(M3以上)

2002 08 01 00:00 --- 2002 08 31 24:00 N = 549

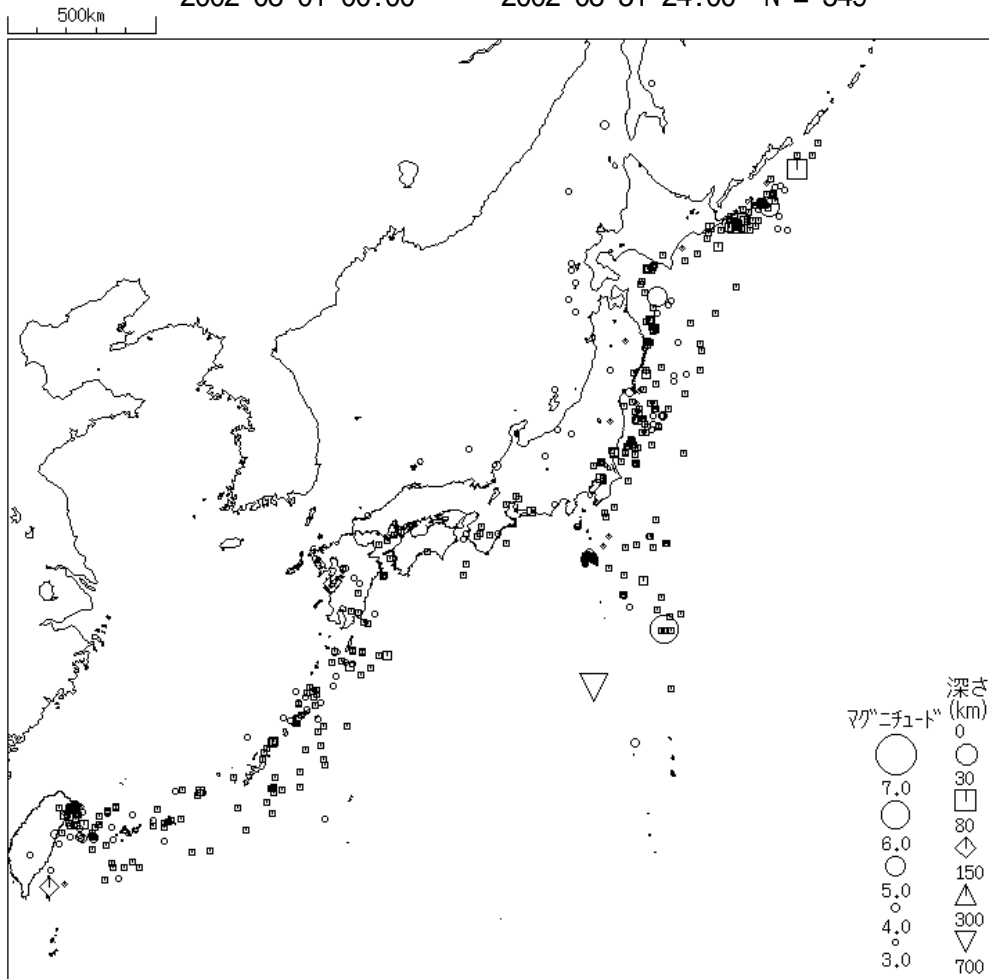


図4

平成14年9月の地震活動(M3以上)

2002 09 01 00:00 --- 2002 09 30 24:00 N = 453

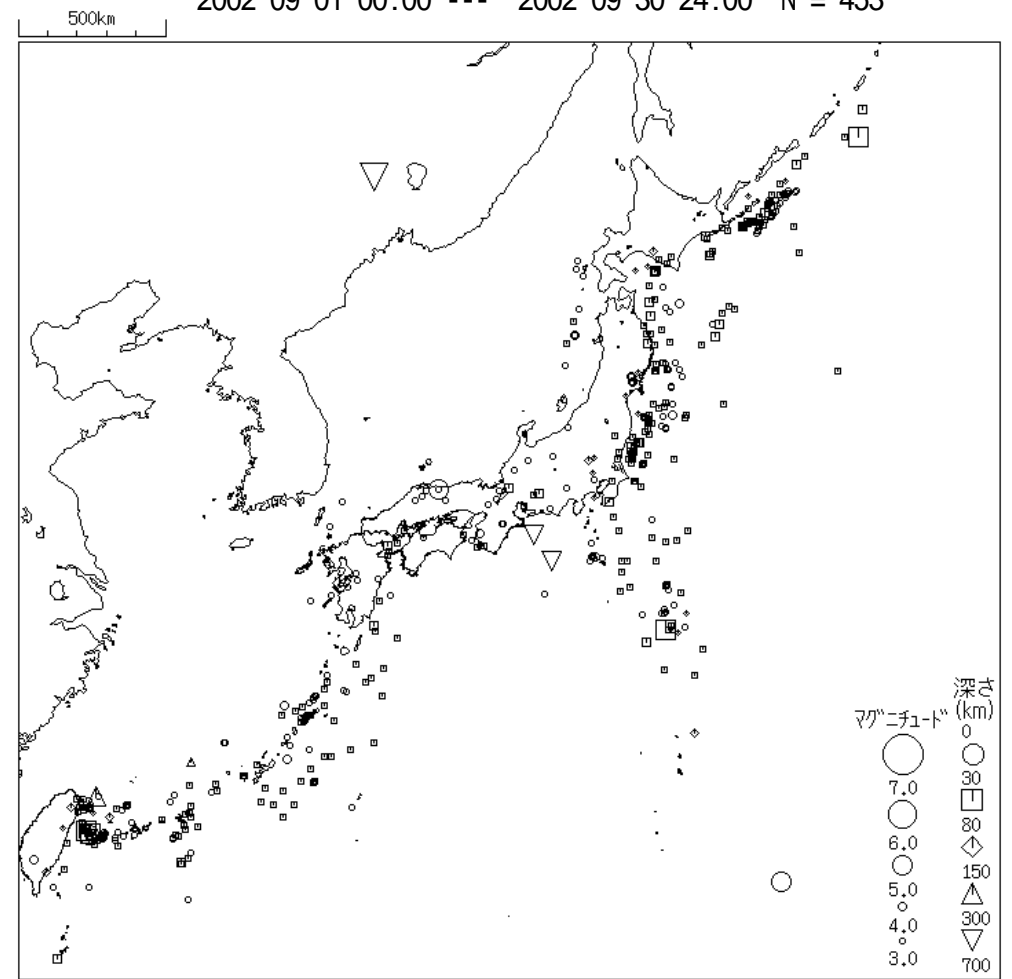


図5

別紙 1 - 参考 4

表1

過去 1 年間の最大震度別の月別地震回数 <平成13年(2001年)9月～平成14年(2002年)9月>

	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	記事
2001年9月	59	18	7	3						87	2日：岩手県内陸南部(震度5弱1回)、8日：神奈川県西部(震度5弱1回)、9日：奄美大島近海(震度5強1回、26回*)、三宅島近海～新島・神津島近海(26回*)、与那国島近海(17回*) 三宅島近海～新島・神津島近海(20回*)、伊豆大島島内(19回*)、和歌山県北部(20回*)、鳥取県西部地震の余震活動(18回*) 12日：茨城県沖(震度5弱1回)、三宅島近海～新島・神津島近海(17回*)、鳥取県西部地震の余震活動(10回*) 三宅島近海～新島・神津島近海(17回*)、鳥取県西部地震の余震活動(10回*) 三宅島近海～新島・神津島近海(29回*) 三宅島近海～新島・神津島近海(10回*)、伊豆大島近海(10回*) 八丈島近海(33回*)、三宅島近海～新島・神津島近海(11回*) 鳥取県中・西部(14回*)
10月	67	25	4	1						97	
11月	56	19	7							82	
12月	117	36	12	4	2	1				172	
2002年1月	106	33	14	3						156	
2月	58	17	6	1	1					83	
3月	69	29	13	3						114	
4月	55	24	7	1						87	
5月	74	20	7	5						106	
6月	73	20	3	2						98	
7月	68	24	9	2						103	
8月	87	20	6	2						115	
9月	71	32	10	2						115	
2002年計	661	219	75	21	1					977	
過去1年計	901	299	98	26	3	1				1328	(平成13年10月～平成14年9月)

注) 「記事」欄の「*」は関連の地震で震度1以上が観測された地震の回数。「記事」欄には主に震度5弱以上を観測した地震、または活発な地震活動(震度1以上が10回以上)について記載した。

地方公共団体の震度計による震度の発表開始年月日。

- 平成9(1997)年11月10日 秋田県、埼玉県、神奈川県(横浜市)、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県
- 平成10(1998)年6月15日 群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県、愛媛県
- 10月15日 青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、宮崎県、鹿児島県
- 平成11(1999)年7月21日 東京都、長野県
- 平成12(2000)年1月12日 栃木県、千葉県、岐阜県
- 3月28日 滋賀県
- 7月18日 富山県、香川県、大分県
- 平成13(2001)年3月22日 佐賀県
- 5月10日 山梨県、神奈川県(川崎市)
- 7月19日 高知県
- 12月12日 福島県
- 平成14(2002)年3月20日 岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県
- 7月29日 北海道、長崎県

別紙 1 - 参考 5

表2
日本及びその周辺におけるM(マグニチュード)別の月別地震回数
<平成13年(2001年)9月~平成14年(2002年)9月>

	M3.0 ~ M3.9	M4.0 ~ M4.9	M5.0 ~ M5.9	M6.0 ~ M6.9	M7.0 以上	計 M3.0以上	計 M4.0以上	記事
2001年9月	351	38	5			394	43	
10月	391	39	5	1		436	45	4日:千島列島(M6.0)
11月	338	38	10			386	48	
12月	852	99	6	1	1	959	107	2日:岩手県内陸南部(M6.4) 18日:与那国島近海(M7.3)
2002年1月	548	56	6			610	62	
2月	335	29	5	1		370	35	2日:ウラジオストク付近(M6.0)
3月	404	63	7	2	1	477	73	7日:オホーツク海南部(M6.0) 26日:石垣島南方沖(M6.6) 31日:台湾付近(M7.0)
4月	436	47	5			488	52	
5月	471	51	5	1		528	57	15日:台湾付近(M6.8)
6月	395	53	2	1	1	452	57	3日:鳥島近海(M6.2) 29日:ウラジオストク付近(M7.2)
7月	471	66	7			544	73	
8月	494	48	5	2		549	55	3日:鳥島近海(M6.2) 20日:鳥島東方沖(M6.1)
9月	397	45	10	1		453	56	15日:ウラジオストク付近(M6.5)
2002年計	3951	458	52	8	2	4471	520	
過去1年計	5532	634	73	10	3	6252	720	(平成13年10月~平成14年9月)

注)日本及びその周辺:北緯20~49度、東経120~153度の範囲。「記事」欄には主にM6.0以上の地震について記載した。

世界の主な地震

9月に世界で発生したマグニチュード(M)6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震源要素等を表1に示す。

2002 09 01 00:00 --- 2002 09 30 24:00

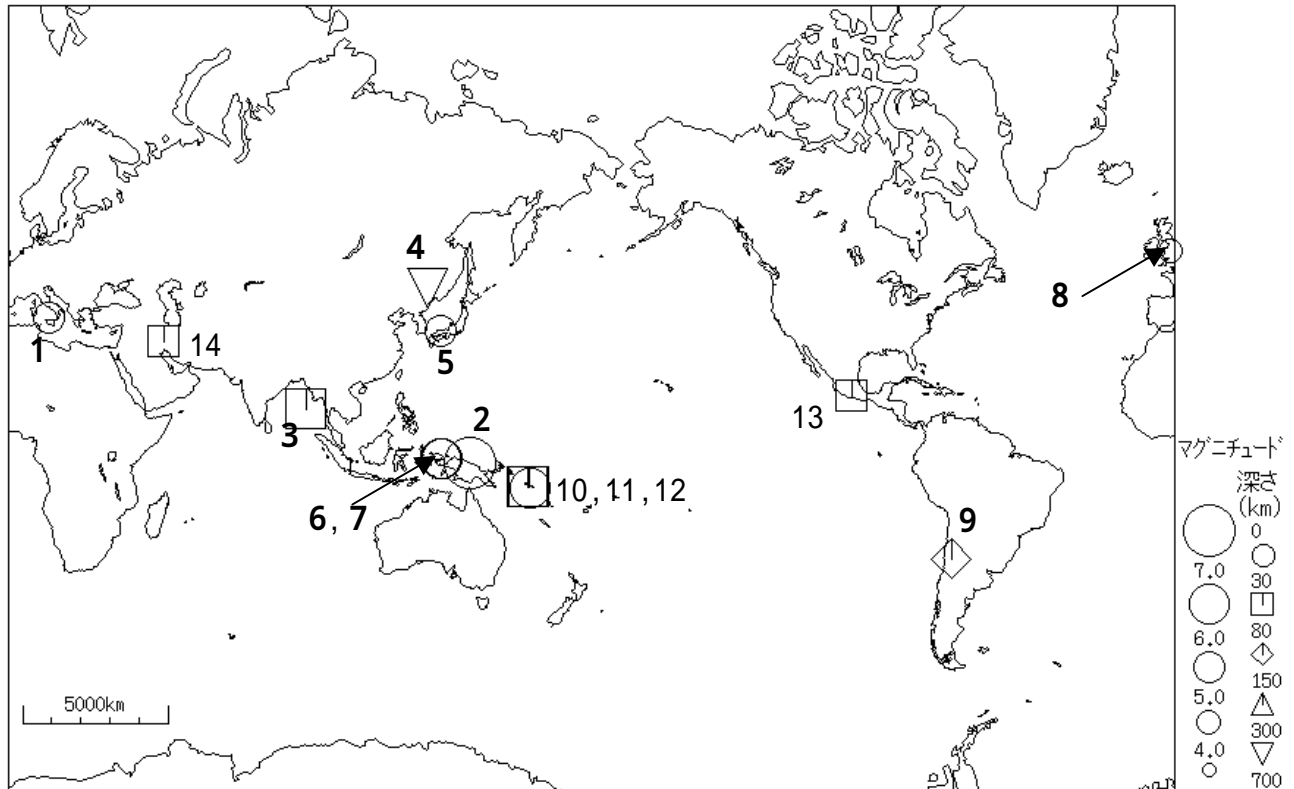


図1 2002年9月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震央分布

<震源要素は米国地質調査所(USGS)発表のQUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による>

* : 数字は、表1の番号に対応する。

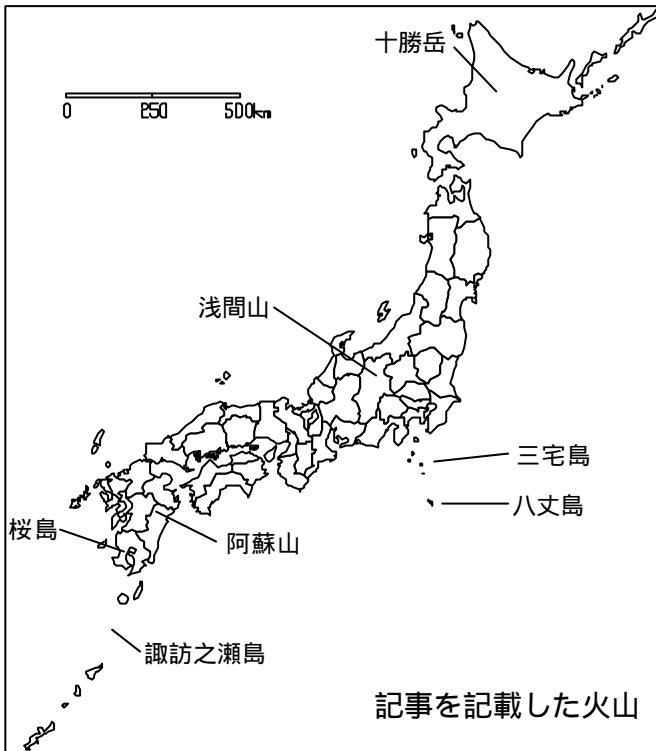
** : マグニチュードはMb(実体波マグニチュード)、Ms(表面波マグニチュード)のいずれか大きい値を用いて表示している。

表1 2002年9月に世界で発生したマグニチュード6.0以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	月日時分	緯度	経度	深さ(km)	Mb	Ms	Mw	震央地名	被害状況
1	09月06日10時21分	N38° 22.2'E	13° 41.8'	10*	5.8	5.6	5.9	シシリー	死者2名、負傷者20名、建物被害等
2	09月09日03時44分	S 3° 16.2'E	142° 51.3'	13*	6.4	7.8	7.3	ニューギニア島北部沿岸付近	死者6名以上、建物被害等
3	09月14日07時28分	N13° 00.7'E	93° 08.8'	33#	6.2	6.8	6.5	アンダマン諸島	死者2名以上、建物全壊40棟以上等
4	09月15日17時39分	N44° 48.2'E	130° 35.8'	644	6.3	(6.5)	6.4	ウラジオストク付近	
5	09月16日10時10分	N35° 22.0'E	133° 44.5'	10	4.8	(5.3)		鳥取県中 西部	住家一部破損 7件、非住家破損 7件等
6	09月20日22時33分	S 1° 34.8'E	133° 55.4'	10*	5.7	6.0	6.0	インドネシア,リアンジャヤ付近	
7	09月21日00時43分	S 1° 32.2'E	134° 20.8'	10*	6.0	6.4	6.3	インドネシア,リアンジャヤ付近	建物被害 31件以上等
8	09月23日08時53分	N52° 31.0'W	2° 08.4'	10	4.7			イギリス	煙突崩壊 1件以上、その他小被害等
9	09月24日12時57分	S31° 25.7'W	68° 57.6'	120	6.3		6.4	アルゼンチン,サンファン州	建物被害等
10	09月24日13時13分	S10° 30.7'E	161° 08.1'	33#	5.5	6.2	5.9	ソロモン諸島	
11	09月25日07時54分	S10° 30.8'E	161° 00.2'	33#	5.7	6.3	6.1	ソロモン諸島	
12	09月25日08時01分	S10° 35.4'E	161° 09.3'	19*	5.7	6.5	6.3	ソロモン諸島	
13	09月26日03時14分	N16° 57.7'W	99° 51.0'	33#	5.1	4.7		メキシコゲレロ州沿岸付近	負傷者 2名
14	09月26日07時28分	N32° 04.0'E	49° 14.2'	33#	5.5	5.0	5.5	イラン西部	負傷者 5名以上、建物被害数件等

- ・震源要素、被害状況等は米国地質調査所(USGS)発表のQUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による(2002年10月6日現在)。ただし、日本付近で発生した地震については震源及びマグニチュード(Msの欄に括弧を付して記載)は気象庁、被害状況は総務省消防庁による。
- ・時分は震源時で日本時間[日本時間=協定世界時+9時間]である。
- ・MwはUSGSのモーメントマグニチュードである。
- ・USGSによれば、震源の深さ「33#」は、震源計算による深さの精度が得られないため、「33km」に固定していることを示す。また、震源の深さ「10*」「13*」「19*」は、震源計算による深さではなく、別の方法による推定値である。

平成14年 9月の主な火山活動



過去1年間に記事を記載した火山

火山名	平成13年				平成14年								
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
雌阿寒岳													
十勝岳													
樽前山													
有珠山													
岩手山													
吾妻山													
安達太良山													
磐梯山													
那須岳													
草津白根山													
浅間山													
箱根山													
伊豆東部火山群													
伊豆大島													
三宅島													
八丈島													
伊豆島													
噴火浅根													
硫黄島													
北福徳堆													
福徳岡ノ場													
九重山													
阿蘇山													
雲仙岳													
霧島山													
桜島													
薩摩硫黄島													
諏訪之瀬島													

【記号の意味： 噴火した火山、 観測データ等に变化のあった火山】

十勝岳 62-2 火口は活発な噴煙活動と、火口内温度が約 400 と高温な状態が継続している。22 日に小さい火山性微動が発生し（5 月 7 日以来）また 7 日に一時的に地震がやや増加したが、いずれの場合も、その他の観測データに異常な変化はなかった。

浅間山 地震回数及び噴煙量が、共にやや多い状態が継続した。

三宅島 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、長期的には減少傾向にあるが、日量 5 千~2 万トン程度と依然多い状態が継続した。16 日に小規模な噴火が発生し、島内で微量の降灰を確認したが、火山活動に大きい変化はなかった。

八丈島 8 月 13 日 16 時頃から活発となった八丈島西山（八丈富士）~八丈島北西沖の地震活動は、9 月上旬過ぎから低調となった。

阿蘇山 5~9 日に孤立型微動が一時的に増加したが、それに伴う表面現象の変化は確認されなかった。中岳第一火口は、南側の火口壁の温度が約 300 と高い状態が継続しているが、火口内は依然全面湯だまり状態にあり、火山活動に特段の活発化はみられない。

桜島 噴火が 5 回発生したのみで桜島の火山活動としては静穏な状態であった。

諏訪之瀬島 噴煙を火口上数百 m まで上げる程度の小規模な噴火が継続してきたが、中旬から下旬に、時折噴火活動がやや活発になり、火山灰を含む噴煙が火口縁上約 1,000m まで上がった。しかし島内の集落への影響は、風向きによっては少量の降灰が確認された程度であった。

発表場所：気象庁記者会見室（記者レク）
発表日時：平成14年10月7日（月）16時

平成14年10月7日
国土地理院

平成14年8月～9月の地殻変動について

国土地理院が全国に展開しているGPS連続観測網の観測結果では、8月上旬～9月上旬の1ヶ月間には特に目立った地殻変動はありませんでした（別紙1～5）。過去1年の地殻変動は別紙6の通りです。

2001年春頃から東海地域西部において、それまでと傾向の異なる地殻変動が見られています。この非定常地殻変動は2000年の後半からゆっくりと始まった可能性もありますが、2001年になって顕著になりました。最近の地殻変動を見ると、当初変動の大きかった浜名湖付近から北東方向にやや拡散して継続しているように見えますが、これらを集計した全体的なすべりの総量には、加速傾向はありません（別紙7～10）。

8月13日から始まった八丈島の微少な地震活動に際し、地殻変動が観測されました（別紙11、12）。8月15日に八丈島の観測点が東へ6cm程度移動、数cm隆起し、その後1週間程度の間に変動量の半分程度が逆方向に戻る向きの変動が観測されました。この後は、特に目立った地殻変動はありません。

全国の地殻変動概況の補足説明

1. 全国の1ヶ月の地殻変動（8月上旬から9月上旬、別紙1）
 - ・硫黄島内にある2点の変動ベクトルの食い違いは、島内で長期的に続いている変動を表している。
 - ・大東諸島・小笠原諸島では、定常的なプレート運動による北西方向の変動が観測されている。

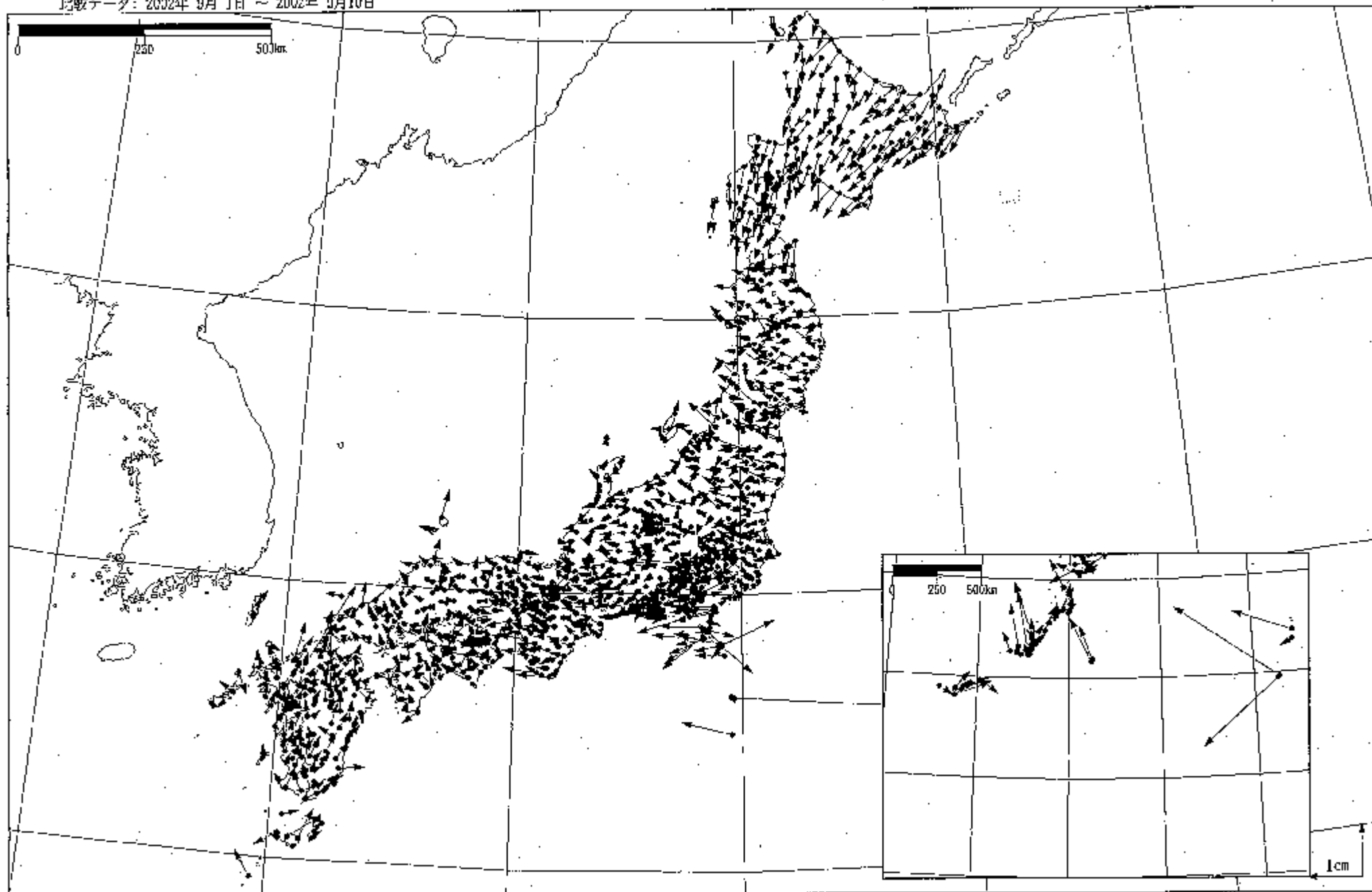
2. 地方別の1ヶ月の地殻変動（8月上旬から9月上旬）
 - (1)北海道・東北地方北部（別紙2）
 - ・目立った地殻変動はない。
 - (2)東北地方南部～中部地方（別紙3）
 - ・硫黄島内にある2点の変動ベクトルの食い違いは、島内で長期的に続いている変動を表している。
 - ・小笠原諸島は、定常的なプレート運動による北西方向の変動が観測されている。
 - (3)近畿地方～九州地方（別紙4）
 - ・目立った地殻変動はない。
 - (4)南西諸島（別紙5）
 - ・大東諸島では定常的なプレート運動による北西方向の変動が観測されている。

3. 全国の1年間の地殻変動（昨年9月上旬から今年の9月上旬まで、別紙6）
 - ・プレート運動による定常的な変動が見られる。
 - ・有珠山周辺および伊豆諸島付近に特徴的な変動が見られる。
 - ・硫黄島内にある2点の変動ベクトルの食い違いは、島内で長期的に続いている変動を表している。

比較手法 : 平均値
基準データ: 2002年 8月 1日 ~ 2002年 8月10日
比較データ: 2002年 9月 1日 ~ 2002年 9月10日

全国の地殻変動図(水平) - 1ヶ月間 -

固定局: 950241 (大滝)



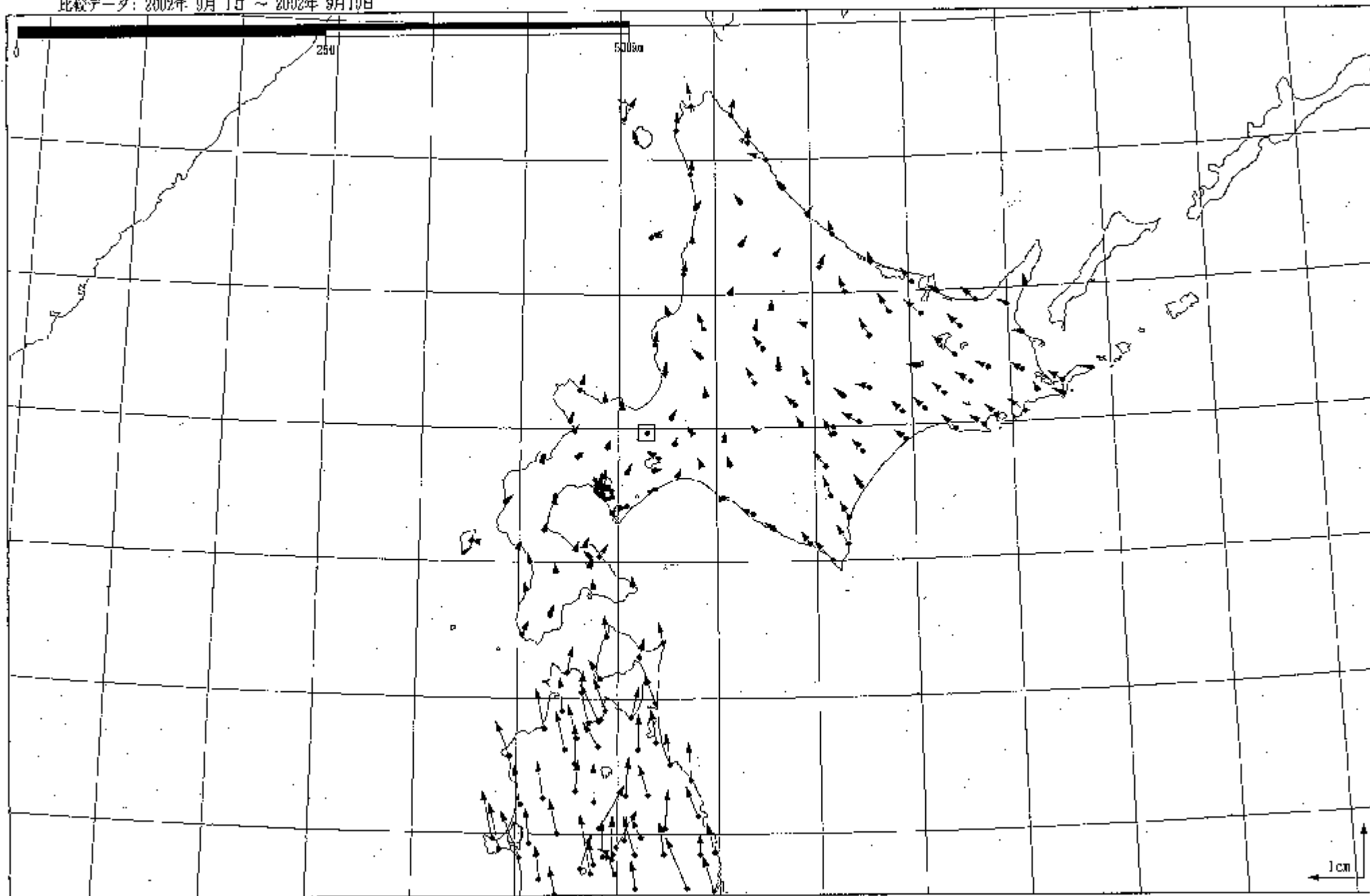
黒: Bernese[精密層]

国土地理院

比較手法：平均値
基準データ：2002年 8月 1日 ~ 2002年 8月10日
比較データ：2002年 9月 1日 ~ 2002年 9月10日

北海道～東北地方北部 地殻変動図(水平) - 1ヶ月間 -

固定局：950128 (札幌)



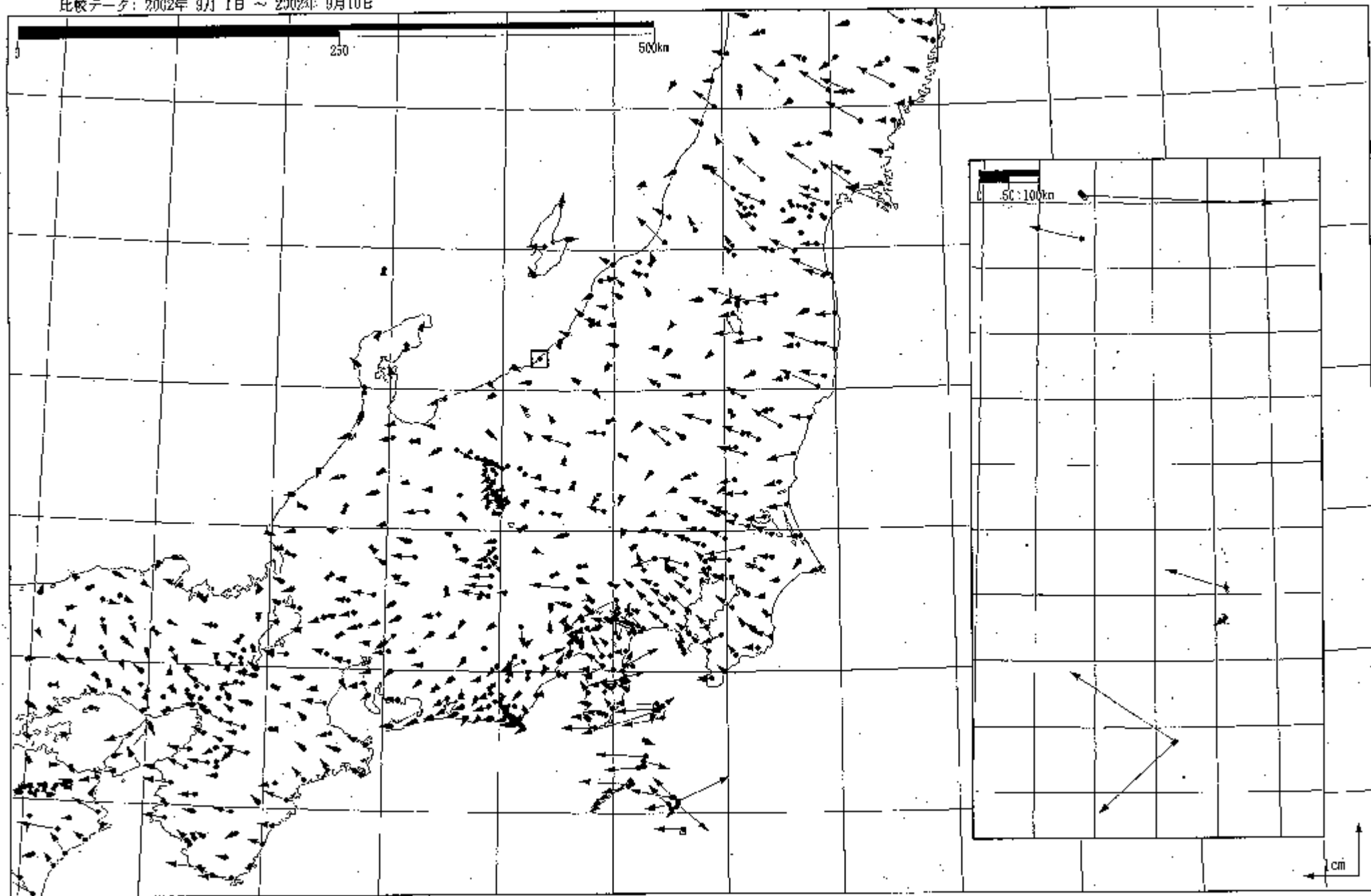
黒：Benise[相密層]

国土地理院

比較手法：平均値
基準データ：2002年 8月 1日 ~ 2002年 8月 10日
比較データ：2002年 9月 1日 ~ 2002年 9月 10日

東北地方南部～中部地方 地殻変動図(水平) - 1ヶ月間 -

固定局：950241 (大湯)



黒：Bernese精密層

国土地理院

比較手法 : 平均値
基準データ : 2002年 8月 1日 ~ 2002年 8月10日
比較データ : 2002年 8月 1日 ~ 2002年 9月10日

近畿地方~九州地方 地殻変動図(水平) - 1ヶ月間 -

固定局 : 950400 (河東)

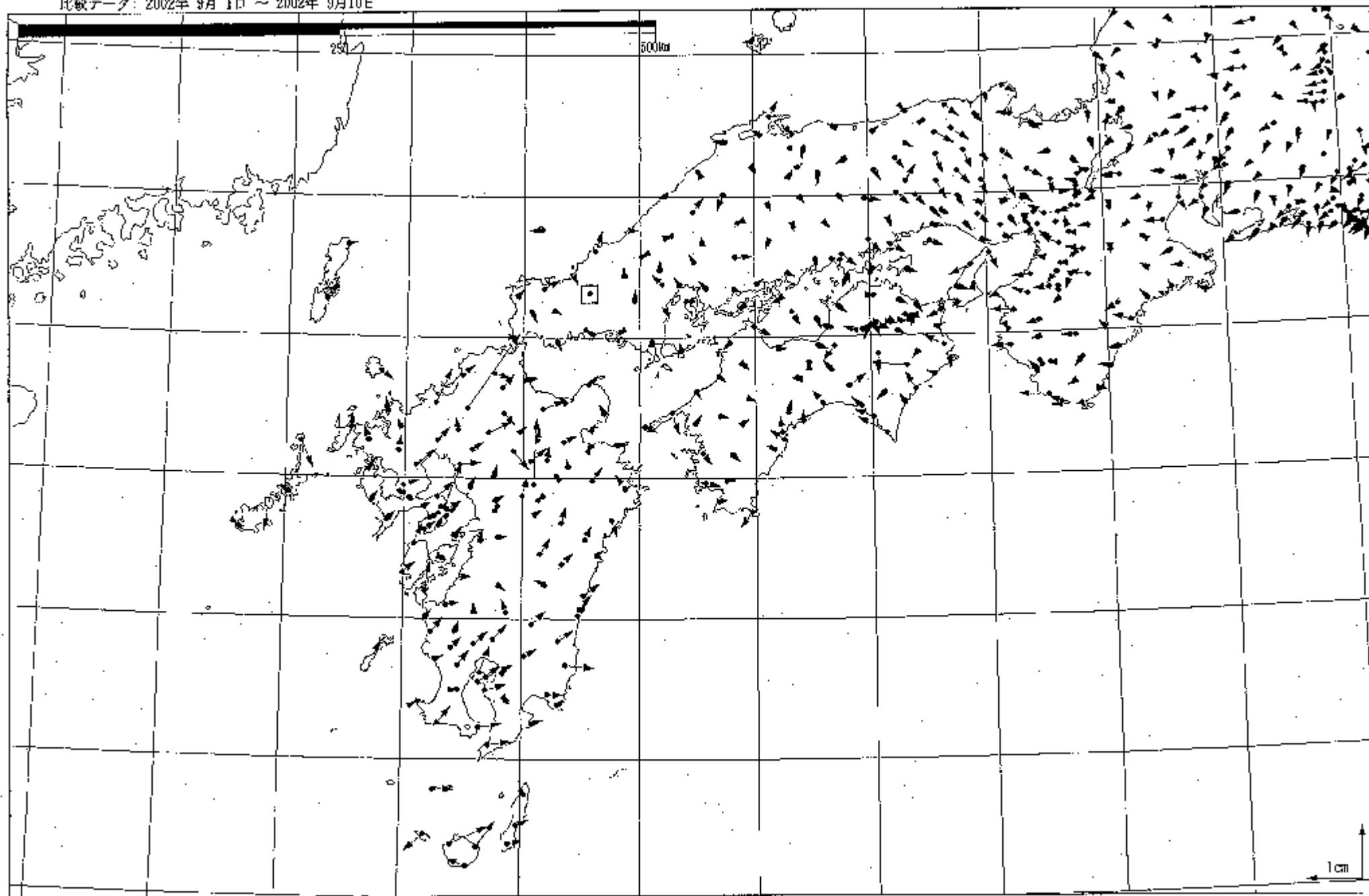


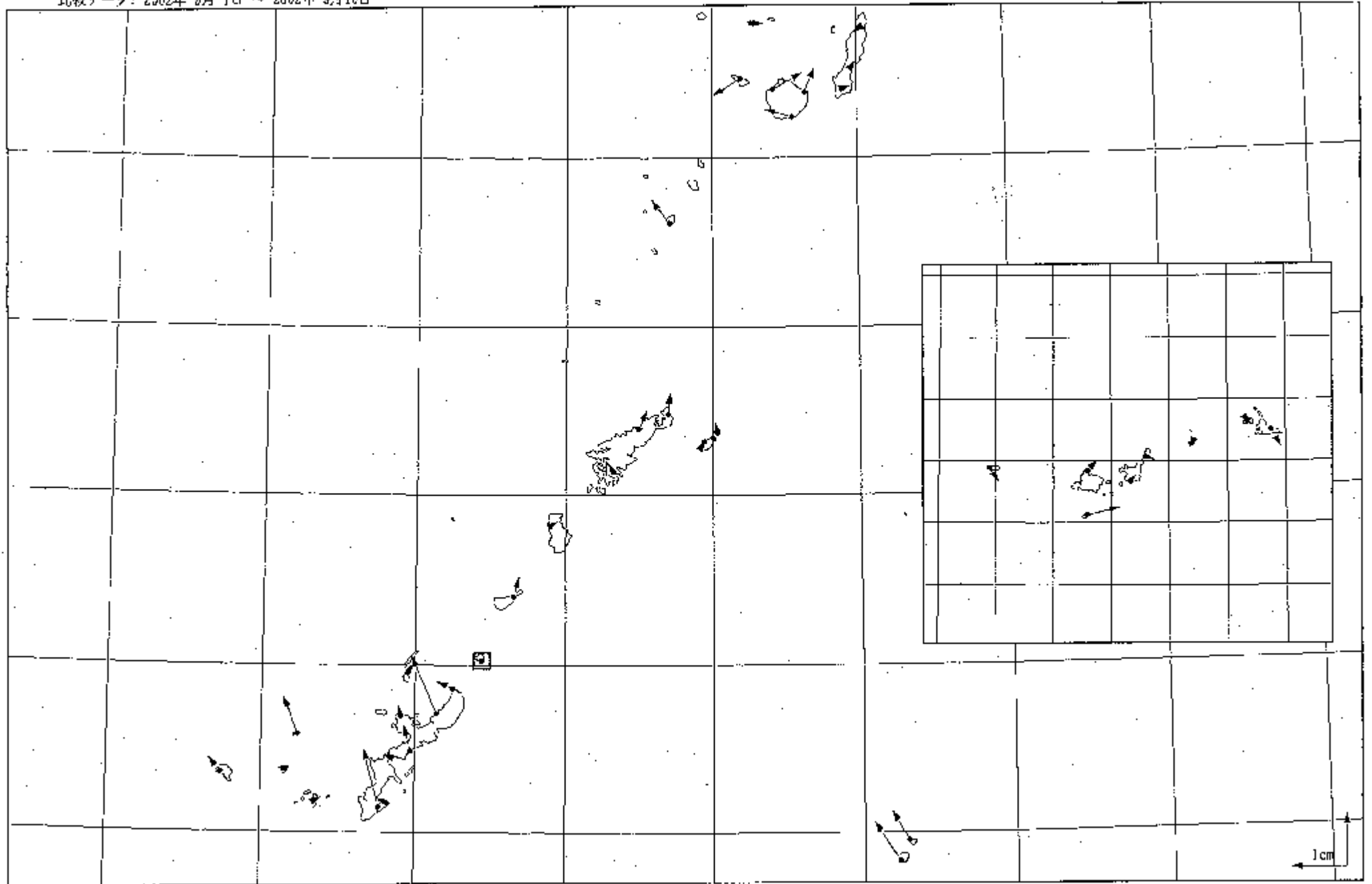
図 : Bernese [精密版]

国土地理院

比較手法：平均値
基準データ：2002年 8月 1日 ~ 2002年 8月10日
比較データ：2002年 9月 1日 ~ 2002年 9月10日

南西諸島 地殻変動図(水平) - 1ヶ月間 -

固定番：950495 (与論)



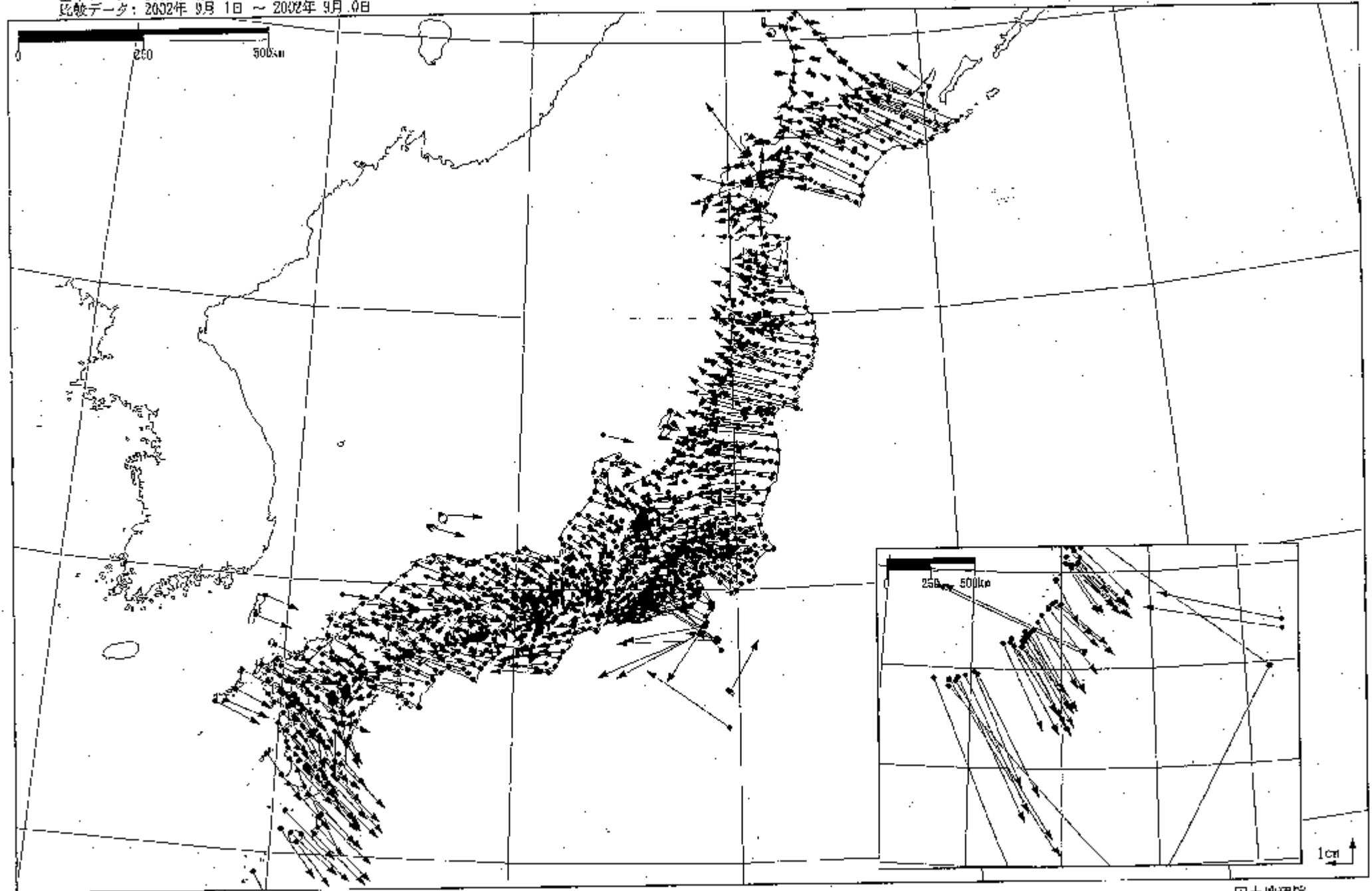
黒：Bernese(精密版)

国土地理院

全国の地殻変動図(水平) - 1年間 -

固定局: 950241 (大津)

比較手法: 平均値
基準データ: 2001年 9月 1日 ~ 2001年 9月 30日
比較データ: 2002年 9月 1日 ~ 2002年 9月 30日



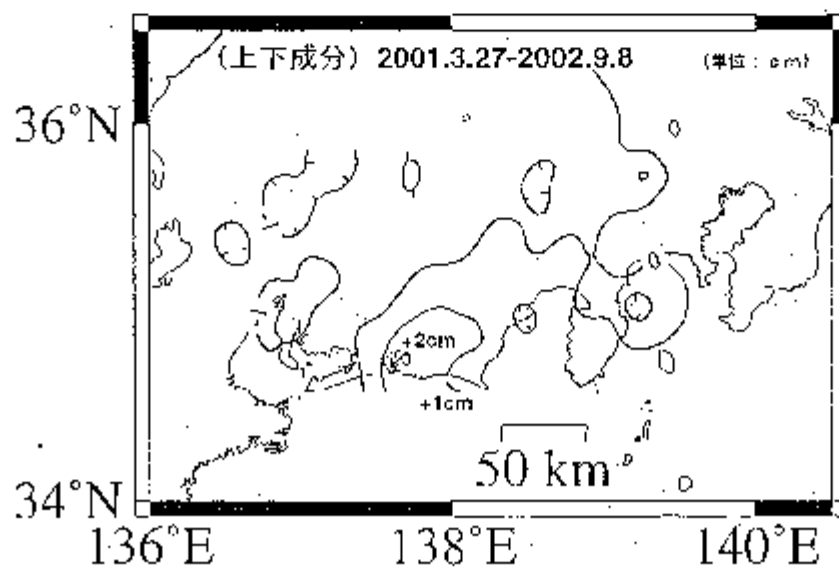
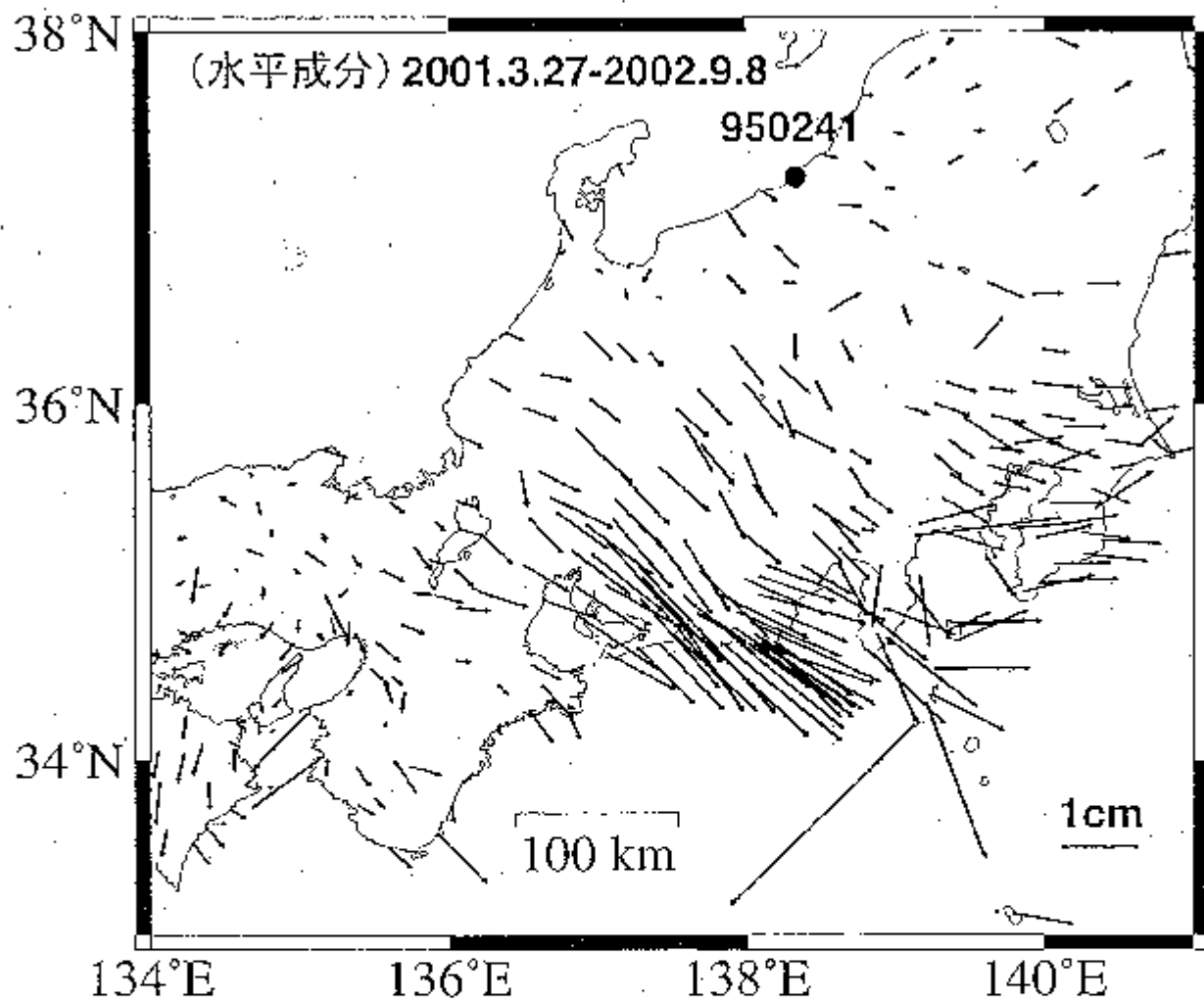
原: Betresc [精密暦]

国土地理院

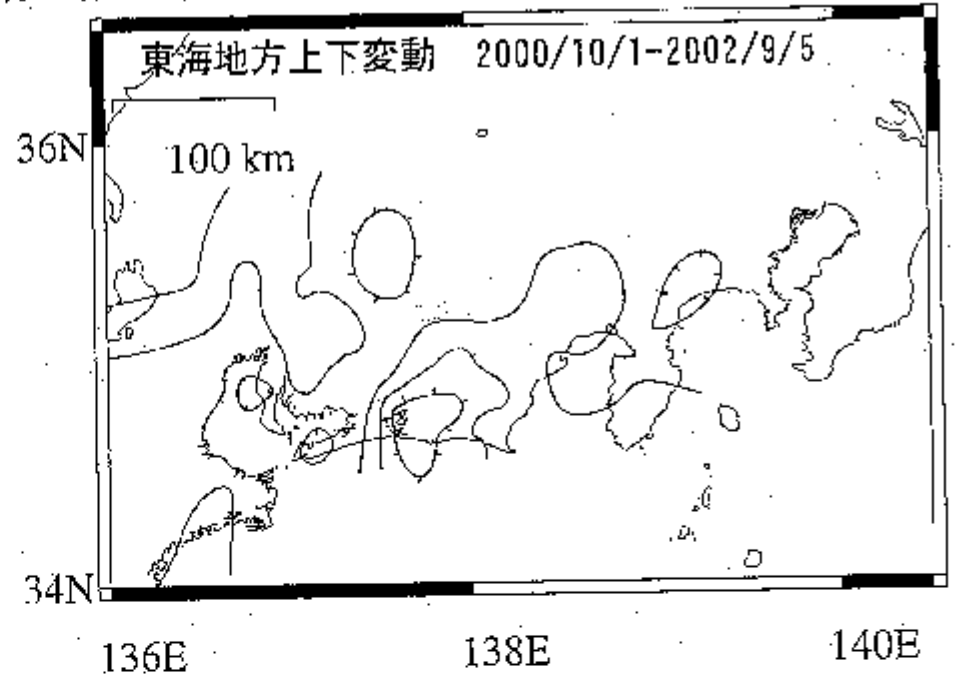
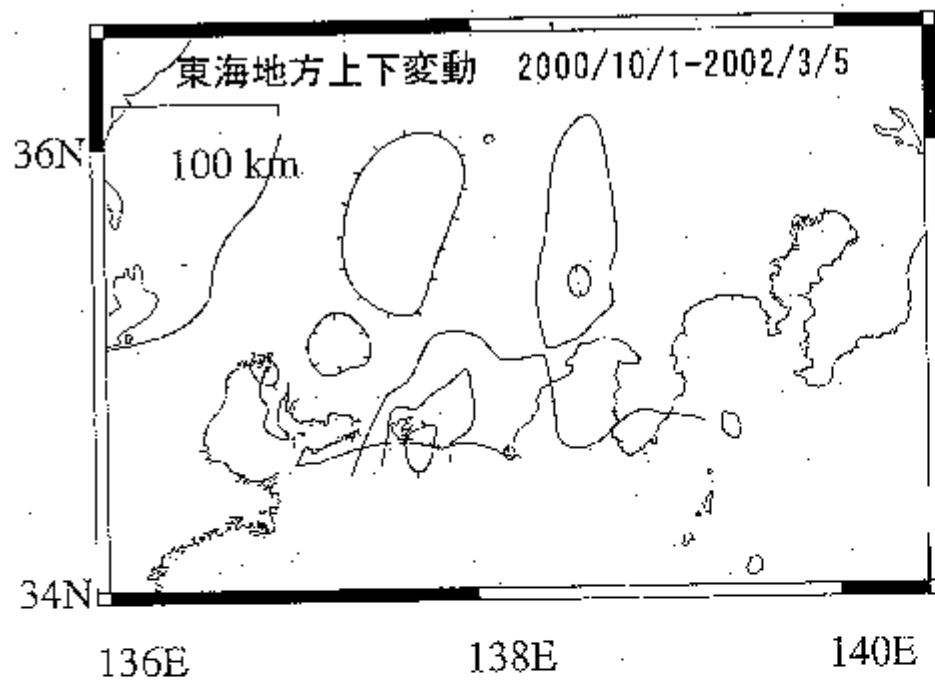
東海地方の地殻変動

平均的な地殻変動からのずれ（精密暦）

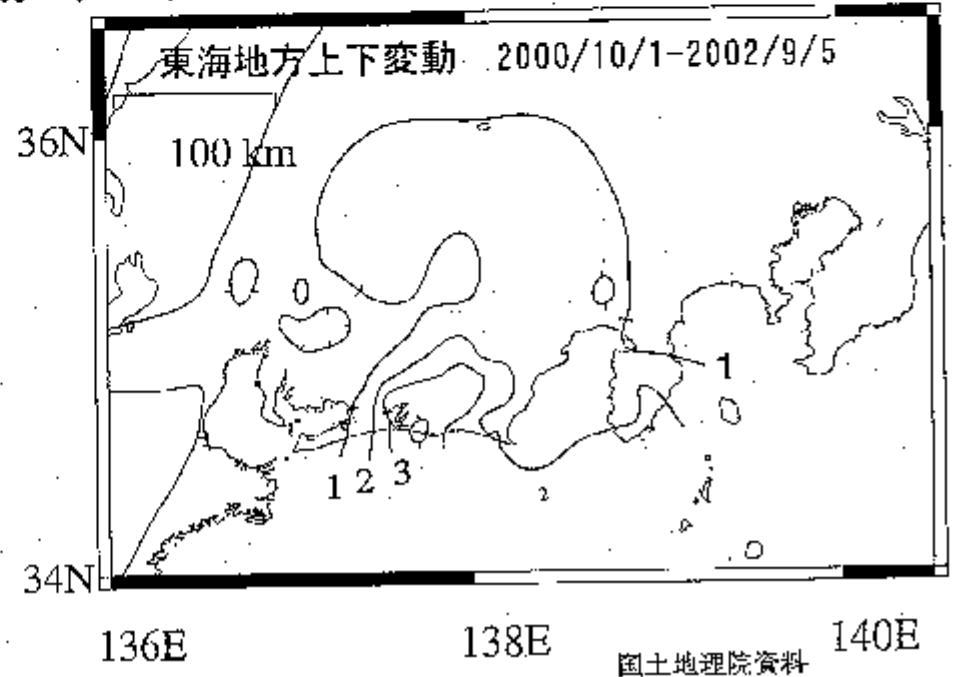
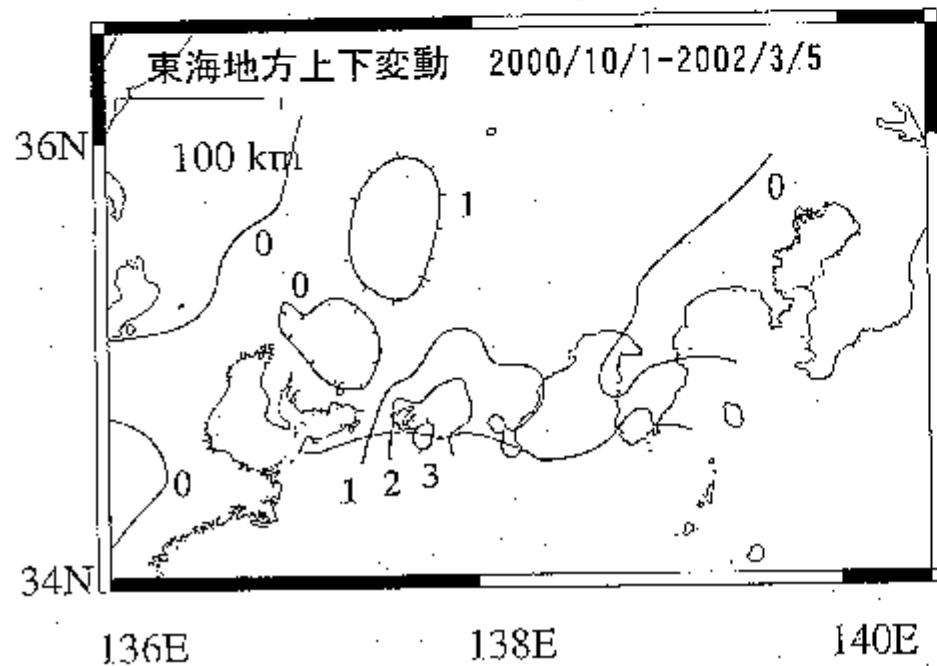
○平均的な変動として、1998年1月～2000年1月までのデータから平均速度及び年周変化を推定し、時系列データから除去している。



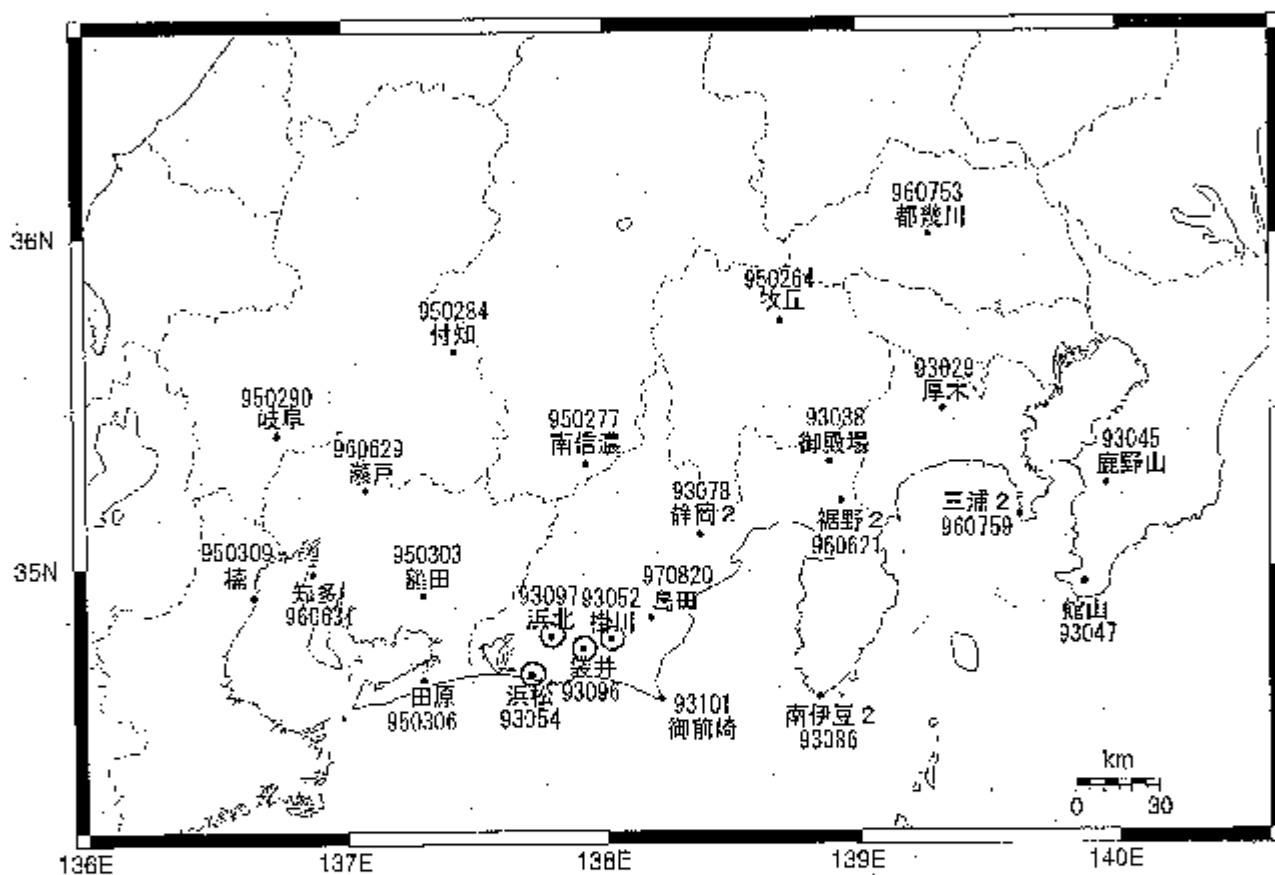
東海地方の上下変動 (大湊固定)



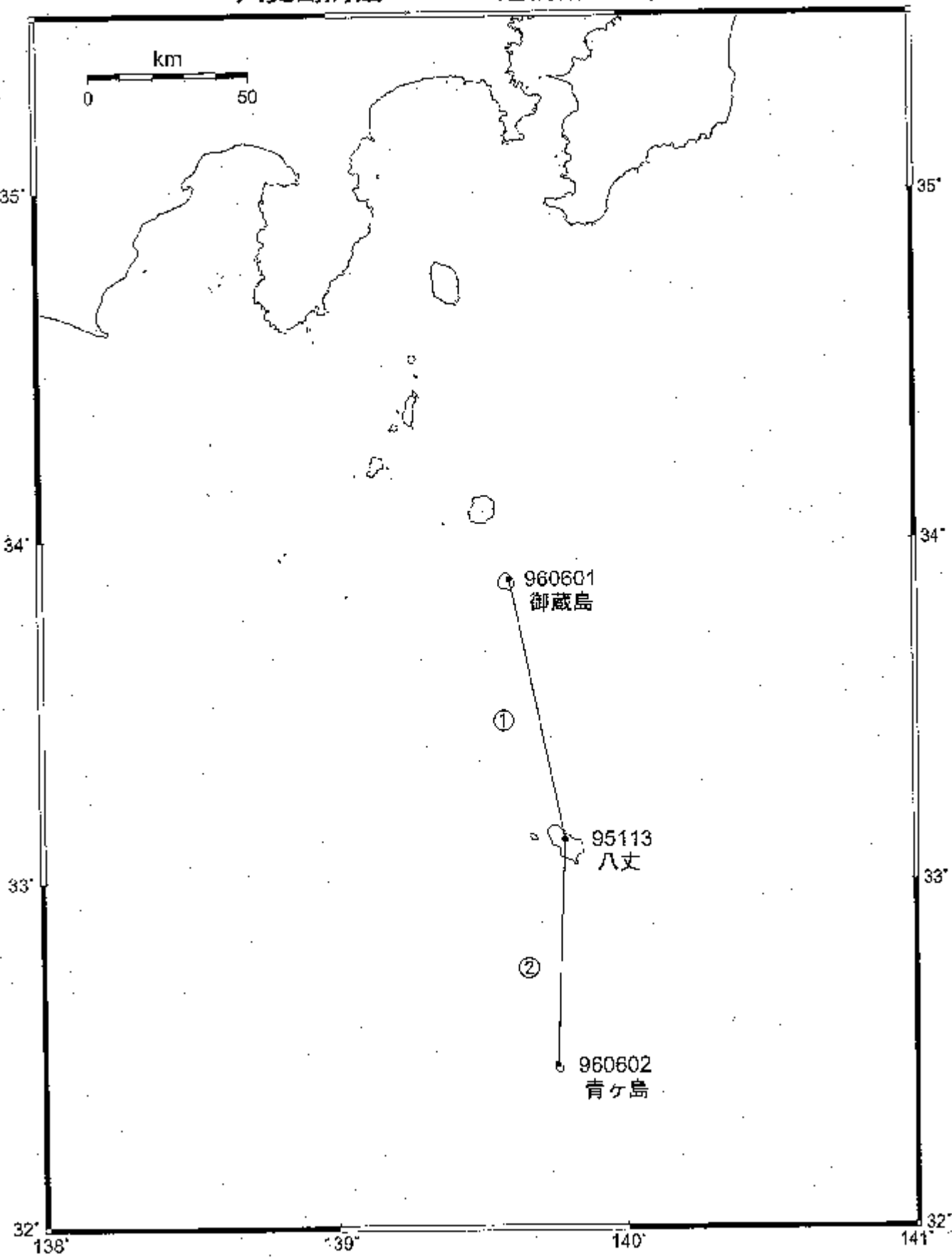
東海地方の上下変動 (マキノノ固定)



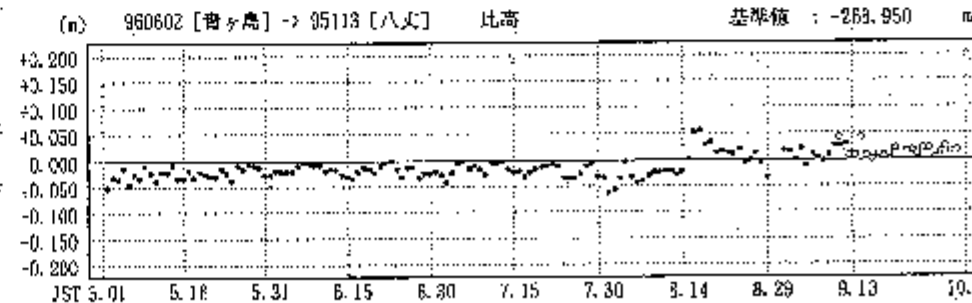
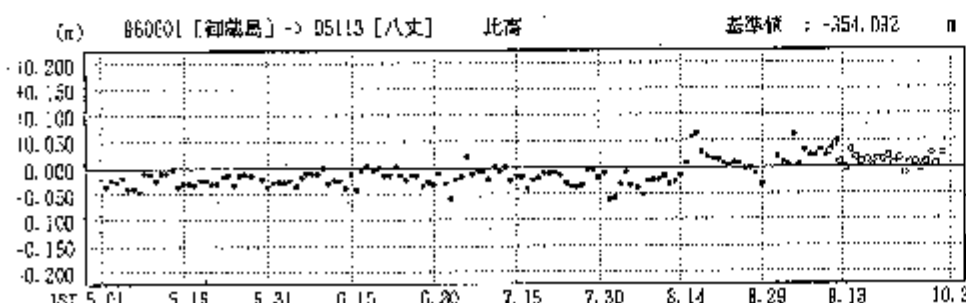
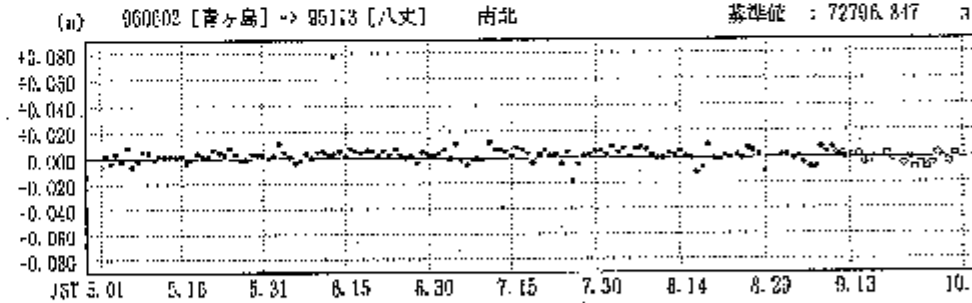
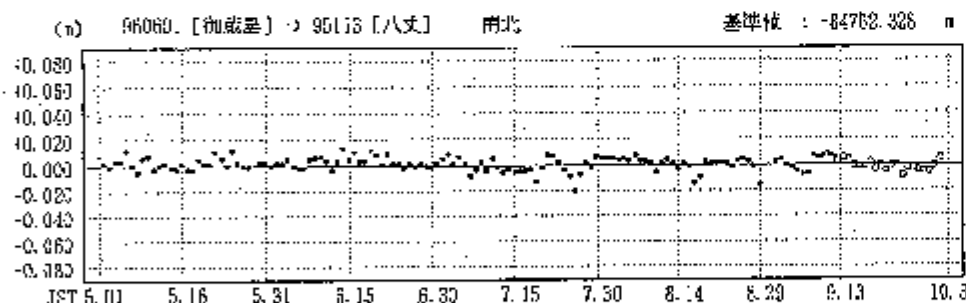
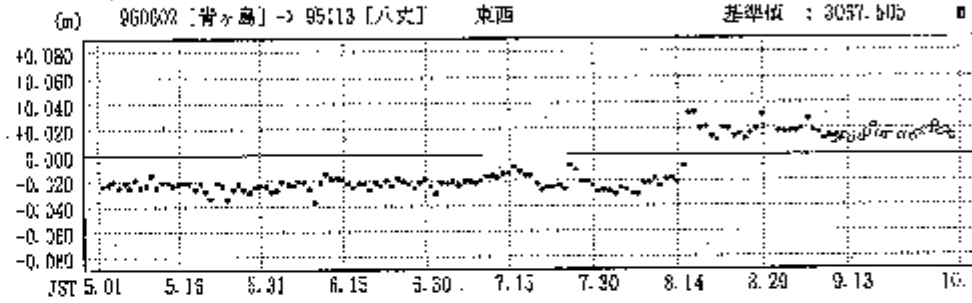
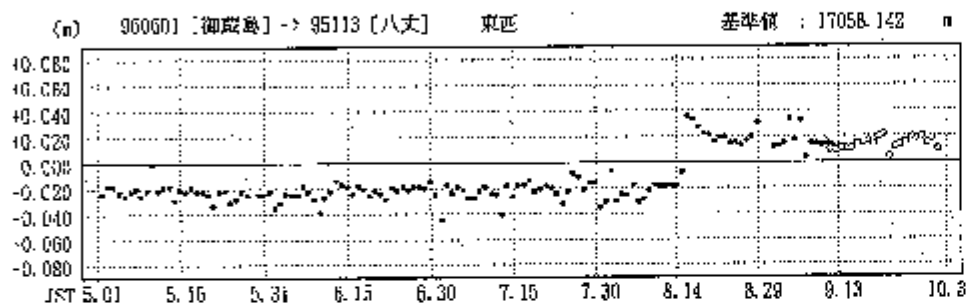
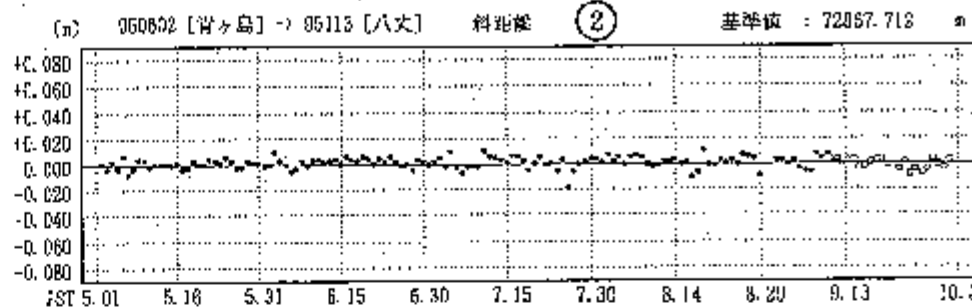
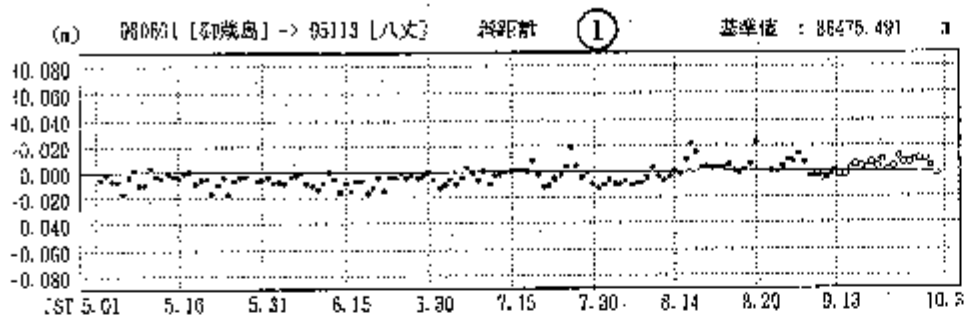
GPS連続観測局配置図



八丈島周辺 GPS連続観測基線図



基線変化グラフ



● --- Bernese[精密層] ○ --- Bernese[組合せ層]

基線変化グラフの見方

基線変化グラフは、2つの観測点の相対的な動きを下図のように斜距離、東西、南北、比高の各成分に分解し、その変化の時系列（通常は1日ごと）をグラフに表したものです。

各グラフの左上に、2つの観測点名が[観測点1 → 観測点2]のように表示されています。グラフは観測点1に対する観測点2の動きを表しています。

横軸は日付（日本標準時）を表しています。縦軸の単位はメートル単位となっています。

グラフ中の黒丸と白丸は最終解と速報解を表します。黒丸（最終解）は国際的なGPS観測機関（IGS）が計算したGPS衛星の最終の軌道情報（精密暦）で解析した結果で、最も精度の高いものです。白丸（速報解）は速報的な軌道情報による解析結果で、最終解に比べ精度は若干下回りますが、早期に解を得ることができます。

プロットされた結果のばらつきには測定に伴う誤差が含まれています。

図

